

公益財団法人日立市民科学文化財団

第3次基本計画

令和8年度～令和12年度

令和8年2月

目次

I	はじめに	1
II	計画策定の趣旨	3
III	基本理念・運営方針・計画期間	4
	1 基本理念	
	2 運営方針	
	3 計画期間	
IV	基本計画	6
	1 財団を取り巻く現状	
	2 財団における課題	7
	(1) 文化芸術事業	
	(2) 科学事業	
	(3) 施設管理運営事業	
	(4) 情報発信・広報	
	(5) 財団運営	
	3 計画の基本的な考え方	9
V	重点事項	11
	1 子どもたちの創造力を育む取組	
	2 市民ニーズの多様化への取組	12
	3 施設を活用した交流と賑わいを創出する取組	13
	4 科学が身近に感じられるための科学館の取組	14
	5 持続可能な財団運営の確立に向けた取組	15

VI	事業の体系と基本施策	16
1	事業の体系	
2	基本施策	17
(1)	管理施設の運営方針	
(2)	文化芸術事業	19
(3)	科学事業	22
(4)	施設管理運営事業	24
(5)	情報発信・広報	27
(6)	収益事業	28
(7)	財団運営	29
VII	第2次基本計画の評価	33
1	第2次基本計画について	
2	第2次基本計画における施策の実施状況及び成果について	
(1)	文化芸術事業	
(2)	科学事業	
(3)	管理施設運営事業	
(4)	収益事業	
(5)	財団運営	
(6)	重点事項	
VIII	資料編	44
1	策定経過	
2	令和2年度から令和6年度までの各種数値の推移	45
3	公益財団法人日立市民科学文化財団に関するアンケート	50

公益財団法人日立市民科学文化財団

第3次基本計画

令和8年度～令和12年度

I はじめに

このたび、「公益財団法人日立市民科学文化財団 第3次基本計画」を策定しました。

第3次基本計画は、平成27年（2015年）4月に旧日立市科学文化情報財団と旧日立市民文化事業団が合併し、新たに日立市民科学文化財団として歩みを始めるに当たり策定した第1次計画（新財団基本計画）、そして、その継承と発展を期して令和3年（2021年）に策定した第2次計画に続く、3期目の基本計画となります。

合併後の本財団は、基本計画を踏まえ、おおむね順調に歩みを進めてきましたが、第2次計画期間の前半は、新型コロナウイルス感染拡大という、日本中が大きな混乱に陥った時期と重なり、本財団においても、イベント開催の自粛や管理施設の臨時休館を余儀なくされるなど、非常に厳しい状況に直面しました。しかしながら、それまでに蓄積してきた事業実績や経験、ノウハウを駆使して事業の継続に努め、関係各位の御協力もいただきながら、難局を乗り切るとともに、改めて、科学、文化、芸術の持つ本質的な価値の重要性と、非常時における適時適切かつ臨機応変な対応の必要性を認識することとなりました。

その後、市民生活が日常を取り戻すとともに、事業への参加者や施設入館者を呼び戻し、科学、文化、芸術を通じた事業展開と交流をそれまで以上に活性化させるよう努め、令和6年度には、科学館の年間入館者数が開館以来最多となるなどの成果をあげることができました。

第2次基本計画の最終年度である令和7年4月、本財団は、合併10周年という節目を迎えました。

このことも念頭に、第3次基本計画では、改めて原点に立ち返り、財団の役割と存在意義、さらには強みを確認するとともに、国・県や市の文化政策の動向を踏まえながら、人口減少や急激な少子高齢化、価値観の多様化といった社会情勢の変化の中にあっても、科学、文化、芸術の更なる振興と市民交流の活性化を図り、地域社会の発展と心豊かなまちづくりに寄与し続けることを目指して、施策を推進することとしました。

本計画の策定に当たっては、市民の意見を反映し、今後の事業立案のための基礎資料とするため、「公益財団法人日立市民科学文化財団に関するアンケート」を実施するとともに、公益社団法人全国公立文化施設協会の御協力により、令和6年度、7年度の2か年にわたり、政策研究大学院大学名誉教授・垣内恵美子先生に御指導をいただきました。お力添えをいただいた皆様に心から感謝申し上げます。

II 計画策定の趣旨

財団基本計画は、定款に掲げる目的の実現に向け、将来を見据えながら、事業を戦略的に継続していくための中長期的な方向性を示した計画です。

平成 26 年 8 月に策定した第 1 次基本計画では、平成 27 年 4 月の合併後の新財団の基本方針を明確化するため、長期的な展望に立つものとして基本理念と運営方針を定めるとともに、5 年間の事業方針と施策を定めました。

これに続く第 2 次基本計画（令和 3 年 3 月策定）では、第 1 次計画に定めた基本理念と方針を踏襲しつつ、事業体系を整理し、新たに、重点課題に対して 4 つの「重点事項」を位置付け、施策と目標を設定しました。これに基づき、毎年度の進捗状況と振り返りを行うことにより、計画の着実な推進に努めたところです。

この間、新型コロナウイルス感染拡大により、目標達成が困難な時期もありましたが、市民生活が日常を取り戻す時期を見極め、改めて基本計画を着実に推進すべく、多様なニーズに対応した事業展開や施設利用率向上のための各種施策、組織体制の見直しなどに取り組み、一定の成果をあげることができました。

第 3 次基本計画においても、これまでの基本理念と運営方針を継承しつつ、第 2 次基本計画の実施状況の検証と、急激に変動する社会情勢や市民ニーズの更なる変化、国・県や市の文化政策の動向などを踏まえ、より効果的・効率的で戦略的、かつ持続可能でバランスの取れた事業展開と組織運営が図れるよう、必要な見直しを行うこととしました。

今回は、重点事項として次の 5 つの取組を位置付けました。

- (1) 新たな発見につながる体験の場を提供する「子どもたちの創造力を育む取組」
- (2) 幅広いジャンルの文化、芸術事業を提供する「市民ニーズの多様化への取組」
- (3) 大型商業施設ヒタチエとの連携による日立駅前地区の活性化など、多くの人が集い、賑わう魅力ある場所をつくる「施設を活用した交流と賑わいを創出する取組」
- (4) 遊びながら学ぶ科学館を目指す「科学が身近に感じられるための科学館の取組」
- (5) 新たな視点を持った、効果的・効率的な財団運営を目指す「持続可能な財団運営の確立に向けた取組」

さらに今回は、職員全員が計画の理念や目標を理解・共有し、一丸となって取り組めるよう、あるべき姿をビジョンとして明確に掲げるとともに、実態に即して事業体系を見直すなど、これまで以上に実効性のある計画とするよう努めました。

第 3 次基本計画は、日立シビックセンター及び日立・多賀市民会館の指定管理期間と同じく令和 8 年度からの 5 年間を計画期間とするものです。この間、3 つの施設を単なるハコモノとして管理するのではなく、それぞれの特徴と立地を活かしながら、地域の魅力を高め、人々をつなぎ、新たな価値を創造する拠点施設として、市民にとってランドマーク的なシンボルとなるよう、科学、文化、芸術の更なる振興に取り組んでいくことを改めて確認し、計画を推進します。

Ⅲ 基本理念・運営方針・計画期間

財団の定款に掲げた目的、「科学、文化、芸術の創造と振興に資する多種多様な事業を展開するとともに、市民交流の活性化を図り、地域社会の発展と心豊かなまちづくりに寄与する」を達成するため、第1次基本計画において、基本理念を「『心豊かなまちづくり』を実現する財団」と決めました。

本計画においてもこの理念を踏襲し、市民に愛される「私たちの財団 (Our Foundation)、私たちのまちの財団 (Our city's Foundation)」を目指すこととします。

また、理念を実現するための運営方針についても、引き続き、まち、人、施設の魅力と市民の信頼を高めることを基本として、4つの視点で整理することとしました。

1 基本理念

「心豊かなまちづくり」を実現する財団

科学、文化、芸術がもたらす感動や発見、そして人と人との交流が市民の暮らしの中に息づき、また、市民自らも新たな創造の担い手となって、未来へとその価値をつないでいく。こうした積み重ねが、私たちが考える「心豊かなまちづくり」であり、「このまちに住んでよかった」と誰もが喜びと誇りを感じられる未来を形作るものであると考えます。

私たちは、日立シビックセンター及び日立・多賀市民会館を拠点として、市民とともに「心豊かなまちづくり」の実現に寄与していきます。

2 運営方針

(1) まちの魅力を高める

ア まちの伝統を継承し、豊かな未来を創り出すため、その主役であり担い手となる市民を、文化的なまちづくりや新しい発見ができるよう積極的に支援します。

イ 多種多様な施設や地域の特徴を総合的にとらえ、これを幅広く活かした事業を提供します。

ウ 市民のニーズに応じた、多彩なジャンルの科学、文化、芸術を提供します。

エ 独自の企画・手法による個性のある文化を創造します。

(2) 人の魅力を高める

- ア 市民の多彩な科学、文化、芸術活動を支援します。
- イ 年齢、性別、障害の有無、国籍、職業、家庭環境等の枠を超えて人々が交流し、お互いの魅力を高め合う場を提供します。
- ウ 科学、文化、芸術の力によって、地域や住民の活力を創造します。
- エ 教育、福祉、観光、産業、地域振興等の様々な領域と、科学、文化、芸術を通して連携します。

(3) 施設の魅力を高める

- ア 管理施設の特色を最大限に発揮するため、それぞれの施設及び所在する地域の特徴を十分に認識し、利用価値と使用頻度を高める運営に努めます。
- イ 施設利用者の利便性向上の視点でのサービス向上に努めます。
- ウ 市民の文化拠点としての施設の価値を高めるため、効果的・効率的に施設を運営し、文化的事業の充実を図ります。
- エ 公共性に根差したサービス向上と、利用者の視点に立った安全・安心な施設の運営及び管理コストの削減を目標とした健全な施設運営を行います。

(4) 市民の信頼を高める

- ア 効果的・効率的な事業の実施とサービス向上の両立に努めます。
- イ これまで培ってきた専門的なノウハウやネットワークの集約・活用を図り、市民や関係機関等との交流や連携を強化します。
- ウ 多岐にわたる市民の要望に応えられ、頼られる職員の育成に努めます。

3 計画期間

計画期間は令和8年（2026年）度から令和12年（2030年）度までの5年間とします。（日立シビックセンター及び日立・多賀市民会館の指定管理期間と同一の期間となります。）

IV 基本計画

1 財団を取り巻く現状

公益法人は、公益性の高い事業を推進することを目的に設立され、高い透明性・信頼性をもって運営することで、地域社会の発展、生活の質の向上に寄与しています。運営する公立文化施設は、科学、文化、芸術の創造・交流・発信拠点であると同時に、地域住民の文化芸術の活動の場、地域コミュニティの活性化などに貢献する役割を担っています。

日立市のまちづくりの指針となる「日立市総合計画」においては、「文化・芸術の次世代への継承と関連施設の魅力向上」、「文化・芸術事業による交流人口の拡大とにぎわい創出」が掲げられており、当財団は、市民主体の立場から心豊かなまちづくりに寄与し、市の文化芸術振興を担う主体として、これらの施策に応えていく必要があります。

しかしながら、今日の人口減少や急激な少子高齢化などの社会情勢の変化を背景に、全国の公立文化施設では、利用者の減少、施設の老朽化に加え、財政問題や人材不足など様々な課題を抱えています。当財団でも同様に、利用者増の促進、施設の維持補修、人材育成、財源確保といった取組が必要となっています。

【財団を取り巻く現状】

- (1) 将来を担う子どもたちにとって、日立市は身近に科学、文化、芸術に触れることができる環境にあることから、実際に「見る」「聞く」「触れる」といった機会を積極的に提供し、子どもたちの創造力豊かな成長を支援していくことが必要です。また、文化活動団体は高齢化・固定化が進み、担い手の減少が見込まれる一方、若年層の参画は限定的であることから、本市の好環境を生かした新たな将来の担い手の育成が必要です。さらに、市が推進する部活動の地域展開に対しても、子どもたちが文化芸術活動を行う機会を確保するため、活動できる場の提供が必要です。
- (2) 今日の社会情勢によるニーズの変化に柔軟に対応し、年齢や障害の有無、国籍、家庭環境等を問わず、あらゆる市民が参加できるような事業構成・内容の見直しが必要です。
- (3) 日立シビックセンターの入館者数は、科学館のリニューアル効果や大型商業施設「ヒタチエ」を核とした日立駅前の賑わいと相まって順調に推移する一方、日立・多賀市民会館の入館者数はコロナ禍前の水準に戻っていない状況です。
- (4) 日立シビックセンター及び日立・多賀市民会館においては、科学、文化、芸術を通して人々が集い、市民・団体等と協働で事業を作り上げることで交流と賑わいを生み出す事業展開が必要です。
- (5) 日立シビックセンター及び日立・多賀市民会館においては、開館から年月が経

ち、経年劣化が進んでいることから、施設の計画的な修繕改修が必要な状況です。

- (6) 財団運営においては、安定経営と信頼性の向上は必須であり、業務効率化による事務負担の軽減、経費削減、財源の確保、収支バランスの取れた事業展開などの取組が必要です。あわせて、専門性の高い人材の育成や職場環境の整備などの取組が必要です。

2 財団における課題

(1) 文化芸術事業

- ア 文化・芸術を通して、次世代を担う子どもたちの創造力を育む取組と将来の担い手となる人材の育成を目的とした事業の推進
- イ 文化活動の活性化を目的とした幅広い市民が参加しやすい仕組みづくり
- ウ 多様化するニーズに対応した、バランスの取れた事業の推進
- エ 文化・芸術を通して、市民・団体・アーティスト等との連携・協働により作り上げる事業の推進
- オ 市内外から人々が集い、交流と賑わいを生み出すことを目的とした事業の推進

(2) 科学事業

- ア 科学を通して、次世代を担う子どもたちの創造力を育む取組の推進
- イ 科学活動の活性化を目的とした幅広い市民が参加しやすい仕組みづくり
- ウ 多様化するニーズに対応した、バランスの取れた事業の推進
- エ 科学を通して、市民・団体・アーティスト等との連携・協働により作り上げる事業の推進
- オ 常設展示を含む施設全体の有効活用を図りながら、幅広い世代が遊びながら学ぶ事業の展開

(3) 施設管理運営事業

- ア 利用者が安全で安心して利用できるための施設環境の整備
- イ 多様なニーズに柔軟に対応したサービスの提供と施設利用にかかる利便性の向上
- ウ 日立シビックセンター及び日立・多賀市民会館を軸とした中心市街地における更なる交流と賑わいの創出
- エ 管理する施設の老朽化に伴う、日立市と連携した計画的な修繕改修

(4) 情報発信・広報

- ア 事業の目的に応じて、各種広報媒体を効果的に活用した情報発信の強化
- イ ホームページ・SNS を積極的に活用した広域的広報の強化
- ウ 財団の認知度やイメージの向上、販売の促進につながる戦略的な広報の推進

(5) 財団運営

- ア 安定的な財団運営を行うための効果的・効率的な事業手法の確立
- イ 収支バランスの取れた事業の組立て及び財源の確保
- ウ 人材育成計画に基づく職員の育成と働き方改革に沿った職場環境の整備

3 計画の基本的な考え方

基本理念に掲げた「心豊かなまちづくり」の実現に向け、運営方針に則り、幅広い世代への科学、文化、芸術の振興に努めます。

(1) 子どもたちが科学、文化、芸術を体験できる機会の充実

将来を担う子どもたちが科学、文化、芸術を身近に感じられる機会を積極的に提供し、創造力や感受性、探求心を育みます。

また、これらの機会を通して、将来の科学、文化、芸術の新たな担い手の育成につなげます。

(2) 幅広い市民のニーズに応える事業の展開

今日の社会情勢による市民ニーズの多様化を踏まえ、そのニーズを的確に捉えた特色のある事業を展開し、多くの市民が科学、文化、芸術を楽しめる機会を提供します。

(3) 科学、文化、芸術を通じた交流と賑わいの創出

日立シビックセンター及び日立・多賀市民会館を中心として、質の高い科学、文化、芸術事業を展開することにより、市内外から人々が集うことで、交流人口の拡大と賑わいの創出につなげます。

(4) 様々な主体との連携・協働による事業の推進

財団と市民・団体・専門家・アーティスト等が連携・協働して、多様な科学、文化、芸術事業に取り組み、文化そのものの価値を高めるとともに、活動を支える人材や新たな担い手の育成につなげます。

(5) 安全・安心で快適に利用できる施設環境の整備

利用者が安全・安心で快適に利用できるよう、ハードとソフトの両面から施設環境の整備に努めます。

日立市と連携し、経年劣化が進む施設の計画的な修繕改修を行います。

(6) 情報発信・広報の強化

事業の魅力ターゲットに確実に届けるために、各種広報媒体を効果的・効率的に活用した情報発信を行います。

事業の認知度や施設のイメージ向上、チケット等の販売促進につながる具体的な戦略を用いた広報を推進します。

(7) 経営改革による持続可能な財団運営

安定的・持続可能な財団運営を行うため、新たな視点からの効果的・効率的な事業手法を用いるとともに、事業の選択と集中によるバランスの取れた事業の組み立てと財源の確保に努めます。

また、人材育成計画に基づいた、柔軟な思考と広い視野、高い技能を持つ職員の育成を行うとともに、風通しの良い職場ややりがいを持って働くことができる環境づくりに努めます。

V 重点事項

基本計画を推進するに当たり、重点的に取り組む課題に対し、施策と目標を設定します。

1 子どもたちの創造力を育む取組

施策	新たな発見につながる体験の場を提供
----	-------------------

【現状・課題】

子どもや親子を対象とした教室やワークショップ等の体験型事業は、市民からの関心も高く、常に多くの参加者があり、好評を得ています。また、アウトリーチ事業を通じて子どもたちに科学、文化、芸術を鑑賞・体験する機会を提供してきた結果、学校関係者等にもその重要性や効果の認識が高まり、事業を効果的に継続できています。

今後は、市が推進する部活動の地域展開に対しても、子どもたちが文化芸術活動に取り組む場を確保するため、活動できる場を提供することが必要です。

市民アンケートにおいても、子ども、特に小中学生を対象としたイベントの拡充が望まれています。



【取組】

子どもたち、特に市内小中学校に在籍する児童・生徒が、気軽に科学、文化、芸術に触れ、参加できる機会を確保します。

鑑賞型事業に加え、ワークショップ等の体験型事業・育成事業を、子どもの成長段階に応じて幅広く実施することで、子どもたちの創造力を育むとともに、将来の新たな担い手の育成につなげます。

目標	◎全事業に対する子ども対象事業の割合 50% (令和6年度 39%) ※子ども料金設定など、18歳以下の子どもの参加を促す取組を含む
----	---

2 市民ニーズの多様化への取組

施策 幅広いジャンルの文化、芸術事業の提供

【現状・課題】

第2次基本計画期間中は、多様化する市民ニーズに応えるため、幅広いジャンルで、年間100を超える事業を実施しました。

これにより、新たな来場者の獲得には一定の成果がありましたが、来場者数が当初の想定を下回る事業もあったことから、改めてニーズの的確な把握に努め、多くの市民が足を運び、満足できるよう、バランスの取れた事業展開が必要です。

市民アンケートでは、市内在住で「文化・芸術に興味がある」と回答した人の約3割が「財団主催事業に参加したことがない」と答えています。こうした層の参加を促すため、企画内容や広報の工夫を含めた取組が必要です。



【取組】

国内外の質の高い文化芸術に触れ、価値のある体験を提供する事業や、人気のある出演者を起用したコンサート、注目度が高まりつつある事業や創造性に富んだ事業など、バランスの取れた事業展開を行います。

事業ごとにアンケート調査を実施し、日時、内容、料金設定、チケットの入手方法などの項目について満足度を測り、分析結果を事業に反映します。実施にあたっては、調査方法と分析方法を統一するとともに、回収率向上のための工夫を行います。

目標

- ◎アンケート満足度 総合評価4.0ポイント以上（5段階評価）
- ◎鑑賞事業における集客率 80%以上（令和6年度 69%）

3 施設を活用した交流と賑わいを創出する取組

施策 多くの人が集い、賑わう魅力ある場所づくり

【現状・課題】

施設の利用者数について、日立シビックセンターにおいては、ヒタチエを核とした日立駅前地区の賑わいづくりや利用率向上の取組などを行い、順調に推移していますが、日立・多賀市民会館においては、コロナ禍前の水準には戻っていない状況です。

ひたち国際大道芸やヒタチスターライトイルミネーション等の交流事業を中心として、文化芸術を通じた交流人口の拡大や市街地における賑わい創出を目的として事業を行っています。

複合施設のメリットを活かして、日立シビックセンター内に設置されている市立記念図書館、市女性若者支援課等と連携し、文化・交流事業等への参画と施設を有効に活用した事業展開を図っています。



【取組】

各施設では、利用者数・利用率の向上を図るため、利用者の多様なニーズに柔軟に対応しながら、利用しやすい環境を整備します。

各施設の特色を生かしながら継続して魅力的な交流事業等を実施するとともに、日立シビックセンターにおいてはヒタチエとの連携を図ることで、文化芸術を通じた交流人口の拡大や中心市街地における賑わい創出に努めます。

引き続き、記念図書館、市女性若者支援課等との連携により事業の充実と施設の有効活用を図ります。

目標

◎施設年間利用者数（3施設合計） 800,000人（令和6年度 759,033人）

◎施設利用率（3施設合計）

ホール 60%（令和6年度 49.5%）

会議室 60%（令和6年度 47.4%）

◎交流・賑わい創出事業の参加者数 500,000人（令和6年度 448,782人）

※日立シビックセンターは令和8年4月1日から週1日休館

4 科学が身近に感じられるための科学館の取組

施策 遊びながら学ぶ科学館

【現状・課題】

日立シビックセンター科学館が、令和3年4月からサクリエとしてリニューアルオープンし、実体験をテーマとした展示物や、時節に応じた特別イベント等を実施したことにより、多くの市民が来館しています。

天球劇場では、ライブ解説や集客力の高い番組の上映を行うとともに、市内の全ての小学4年生が校外学習で訪れ、プラネタリウムを用いた星空学習に取り組んでいます。

科学館のリニューアルから5年を迎え、改めて施設の魅力を高め、引き続き、県内外に広く発信する取組が必要です。



【取組】

展示物やサイエンスショー、スタッフとのコミュニケーションを通し、来館者が、科学の楽しさや原理に触れる機会を提供します。

大学や企業など科学・天文に関する専門的な知識を持つ団体や市民と連携・協働した様々な事業の実施を通して、施設の魅力を高めます。

広域的な情報発信を行い、幅広いエリアからの集客誘致に努め、入館者数増を図ります。

目標

◎科学館年間入館者数 180,000人（令和6年度 175,556人）

うち、子どもの入館者数 95,000人（令和6年度 91,156人）

※令和8年4月1日から週1日休館

5 持続可能な財団運営の確立に向けた取組

施策	新たな視点を持った、効果的・効率的な財団運営
----	------------------------

【現状・課題】

今日の多様なニーズに対応した事業展開や施設利用率向上のための各種施策、財団の組織体制の見直しなどに取り組んできました。各種事業の実施に当たり、費用対効果が得られないものもあることから、事業の整理や新たな財源の確保が必要です。

また、事務の効率化を図るため、グループウェアや貸館予約・申請の受付に係わる Web システム、インターネットチケット販売システム等のデジタル技術の導入を進めました。

人材育成については、高度な課題に取り組むための能力や高い専門性など、財団の円滑な運営に不可欠な職員の育成が必要です。



【取組】

更なるデジタル技術の導入を通して、業務効率化を図ります。

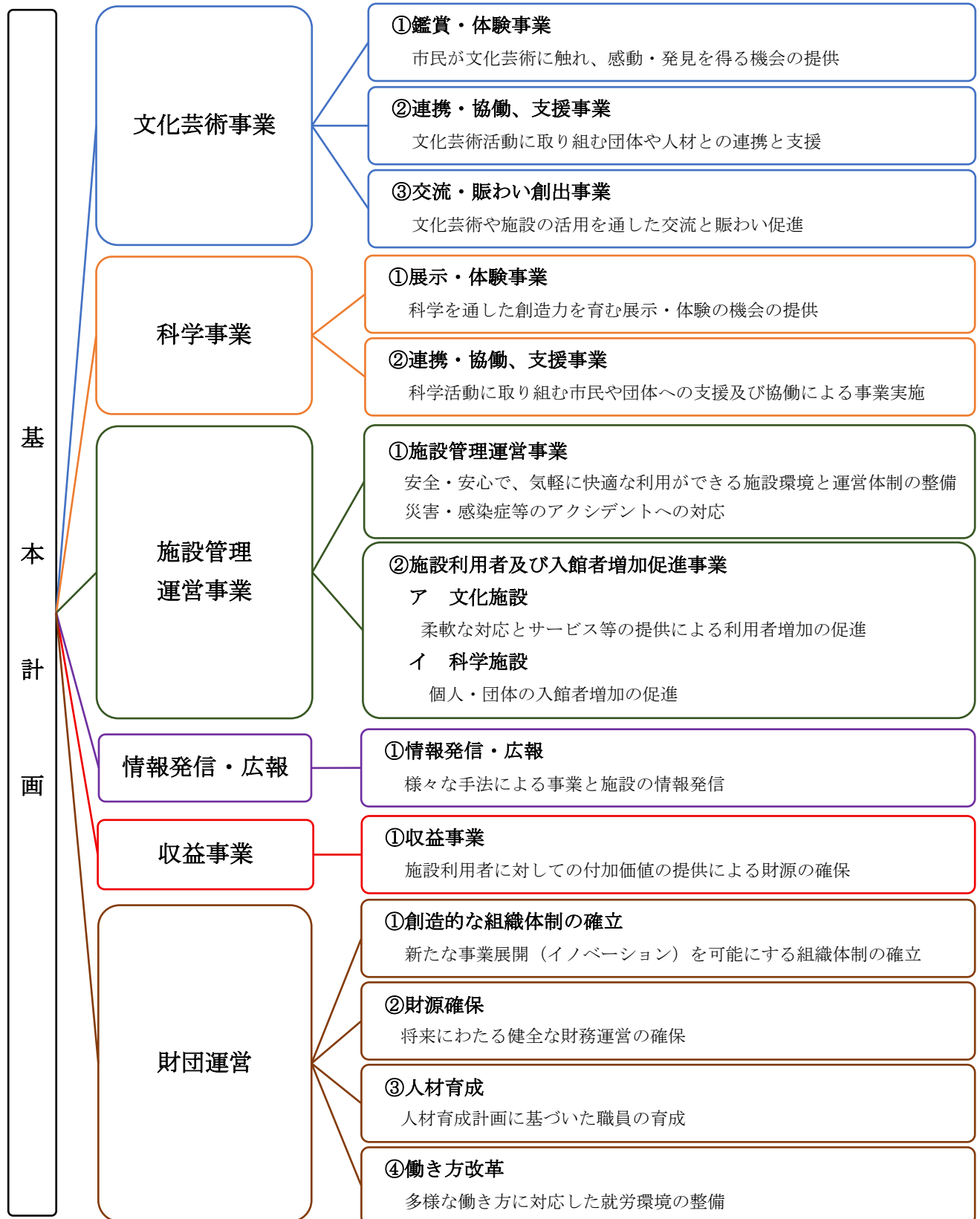
収支バランスがとれた事業の組立てを行うとともに、選択と集中による事業整理を行い、併せて事業収入、助成金、協賛金等の収入増を図り、財源の確保に努めます。

人材育成計画に基づき、職員の育成を図ります。

目標	◎業務効率化を図るための更なるデジタル技術導入の推進 ◎財源の更なる確保 ◎人材育成計画に基づく職員の育成
----	---

VI 事業の体系と基本施策

1 事業の体系



2 基本施策

(1) 管理施設の運営方針

管理する施設ごとに基本的な運営方針を定め、それぞれの特徴を活かした施設運営と施設管理、事業のコンセプトを明確にします。

さらに、異なる特徴を持つ3つの施設を管理運営する財団のメリットを活かし、3館連携による多様な事業展開を図ります。

全ての施設において、安全性と快適性を確保し、利用者の視点に立った運営に努めます。

① 日立シビックセンター 音楽ホール、多用途ホール、マープルホール、新都市広場、会議室

平成2年（1990年）開館。20以上の貸出施設で構成され、様々な文化芸術活動ができる複合施設です。

日立駅前のランドマーク、また、市民の文化活動拠点として、地域に根差し、施設の特徴を活かしながら、多くの市民が集い、交流する施設を目指します。

優れた音響特性を持つ音楽ホールや、自由な創造活動ができる多用途ホールなどの特性を活かし、企画性に富んだ文化・芸術を創造・発信するとともに、市民に様々な文化、芸術体験を提供します。

また、日立駅前という立地や、多くの会議室と屋外広場を有する複合施設である優位性を有効に活用し、大規模会議やイベント誘致を進め、日立駅前地区の交流と賑わいの創出に寄与します。

さらに、館内に設置されている市立記念図書館、市女性若者支援課等との連携により、事業への参画と施設を有効に活用した事業展開を図ります。

② 日立シビックセンター 科学館・天球劇場

「遊びながら学ぶ科学館」をテーマに、来館者が科学を身近に感じられる施設を目指します。科学館は、令和3年（2021年）に「サクリエ」として展示フロアの全面リニューアルが行われました。

展示物、サイエンスショーやスタッフとのコミュニケーションを含めた施設の特性を活かし、来館者に科学の楽しさや原理に触れる機会を提供します。

また、大学や企業など科学・天文に関する専門的な知識を持つ団体や市民と連携・協働した様々な事業の実施を通して、施設の魅力を高めます。

③ 日立市民会館

昭和40年（1965年）の開館以来60年間、日立市の文化・芸術の殿堂として多くの人々が訪れ、愛され親しまれています。

県内最古の市民会館として、市民のニーズに寄り添い、これまでに積み重ねてきた伝統と制作力を活かしながら、市民の誇りとなる市民会館を目指します。

県北地区最大の収容力を誇るホールにおいては、著名なアーティストによるコンサートや多様なジャンルの公演を実施するとともに、施設の構造を活かした創造性のある事業を展開します。

また、ホールの収容力を活かした大規模な式典や興行の誘致を進めるとともに、これまで蓄積してきたノウハウを活かしたサービスを提供することで、施設の価値を更に高めます。

④ 多賀市民会館

多賀市民会館は、昭和45年（1970年）に旧産業文化会館に設置され、その後、多賀市民プラザ内に移設され、平成18年（2006年）にオープンしました。

文化芸術の公演に限らず、発表・展示、屋外でのパフォーマンスなど幅広い文化芸術活動ができる施設を有しています。

市の多賀地区や南部地区における、市民の身近な文化活動拠点として、地域と共に成長する施設を目指します。

様々な演目に対応した大ホールを活用した文化・芸術の発信を行うとともに、交流センター、商店会や多賀地区で活動する団体・企業と連携して、市民がつどい、創造活動を行う事業を展開します。

また、大・小ホール、会議室、広場といった多様な施設構成を活かし、文化芸術活動の各種発表会や小規模複合イベントの誘致等を進め、多賀地区の賑わいと回遊性向上に寄与します。

(2) 文化芸術事業

① 鑑賞・体験事業

5年後に目指す姿

様々なニーズに対応した事業がバランスよく展開され、幅広い世代が参加できるプログラムが充実し、文化芸術に気軽に触れ、感動と発見が得られる機会を提供しています。文化芸術活動における、新たな担い手が生まれるための普及活動が進んでいます。

施策 市民が文化芸術に触れ、感動・発見を得る機会の提供

【現状】

鑑賞事業としてクラシックやポップスなどの音楽コンサート、伝統芸能の公演やアート作品の展示会等を行うとともに、体験型事業として様々なワークショップ等を年間を通して実施しています。その一部においては、当初の想定より来場者が少ない事業もあることから、改めてニーズを的確に把握し、市民に満足してもらえるような、バランスの取れた事業展開が必要です。

また、財団事業においては、若年層の参加が限定的であるため、幅広い世代が感動・発見を得られる事業を提供することが必要です。

市内小学校に訪問するアウトリーチ事業を中心に、子どもたちが文化芸術を実際に「見る」「聞く」「触れる」といった機会を積極的に提供しています。

【取組】

- ・気軽に参加できる機会を提供するため、様々なニーズに応じた、バランスの取れた鑑賞事業、体験事業を展開します。
- ・市民ニーズを的確に把握するため、事業実施後に伴うアンケート等により、事業内容や日時、料金設定などのニーズを分析し、事業に反映します。
- ・子どもたちに優れた文化芸術に触れる機会を提供するため、実施方法や内容の充実を図りながら、アウトリーチ等の体験型プログラムを実施します。

【主な事業】

各種コンサート・公演（クラシック、ポップス、伝統芸能、幼児向け公演等）、アート展示会、各種文化講座・ワークショップ、アウトリーチ（音楽、伝統芸能、演劇） ほか

② 連携・協働、支援事業

5年後に目指す姿

引き続き、文化活動団体と連携・協働し、文化芸術に親しむことができる機会や場づくりを進めています。

施策 文化芸術活動に取り組む団体や人材との連携・協働と支援

【現状】

市民の文化芸術活動に対する支援は継続的に行っていますが、活動団体の高齢化や支援先の固定化などから、活動を支える後継者や担い手の不足が課題となっています。

また、新たに、日立市による中学校の部活動の地域展開に対応した取組も求められています。これらを踏まえ、団体との連携・協働の在り方、新たな担い手の育成・活動支援の進め方について改めて整理する必要があります。

さらに、日立市にゆかりのあるアーティスト等が活動・発表できる場を提供し、郷土への理解や愛着心を醸成することで、地域の文化・芸術活動を支える、新たな担い手の育成支援等を進めます。

【取組】

- ・市民や文化活動団体と連携・協働して事業を実施するため、財団における市民や団体に対する連携、協働及び支援方法を確立します。
- ・中学校の部活動の地域展開に伴い、市と連携し、市内生徒が文化芸術活動を行う場を提供します。
- ・市にゆかりのある人材を応援し、地元への愛着を持つアーティストの育成につなげるため、活動・発表できる場を提供します。

【主な事業】

ひたちジュニア弦楽合奏団、市民オペラ、市民のための能を知る会実行委員会、ニコ・カーニバル、ひたちとアジアの文化交流をすすめる会、ひたち国際文化まつり、日立市文化協会事務局、日立市文化少年団事務局、日立市少年少女合唱団、ひたち Big Band フェスティバル、ピッピコンサート、ひたち街角小劇場、(仮称)日立市ミュージッククラブ ほか

③ 交流・賑わい創出事業

5年後に目指す姿

大規模事業の実施や集客力のある屋外イベント等の誘致を通して、市内外から多くの人々が継続的に集い、交流と賑わいが生まれています。

施策 文化芸術や施設の活用を通じた交流と賑わい促進

【現状】

ひたち国際大道芸、ひたち秋祭り、ヒタチスターライトイルミネーションをはじめとした屋外を会場とする大規模事業を内容の刷新を行いながら実施するとともに、集客力のある屋外イベント等を誘致し、交流と賑わいづくりを図っています。さらに、今後はより幅広い層やニーズに対応し、年間を通じた市民交流や賑わいづくりにつなげていくことが必要です。

【取組】

- ・ 日常的な市民交流やまちの賑わいを創出するため、屋外を会場とする大規模事業を引き続き実施するとともに、施設を活用し、幅広い層に受け入れられるイベントや体験プログラム等の誘致に努めます。
- ・ 大型商業施設ヒタチエと連携し、日立駅前地区の賑わいづくりに努めます。

【主な事業】

ひたち国際大道芸、ひたち秋祭り、ヒタチスターライトイルミネーション、多賀市民プラザ広場活用事業、管理施設賑わい創出事業

(3) 科学事業

① 展示・体験事業

5年後に目指す姿

常設展示や特別展示等を通して、幅広い世代に向けた様々なプログラムが充実し、来館者に科学の楽しさを提供しています。

施策 科学を通じた創造力を育む展示・体験の機会の提供

【現状】

「遊びながら学ぶ科学館」をテーマに運営し、常設展示・プラネタリウム上映、スタッフとの交流を通して、来館者に科学の楽しさを提供しています。さらには、サイエンスショーの実演や時節に合わせたプラネタリウムの特別上映などにより、常設展示では伝えきれない要素も提供しています。

また、実体験を重視した特別展示や教室など、参加者の記憶に残る体験を提供しています。

【取組】

- ・常設展示・プラネタリウム上映、スタッフとの交流やサイエンスショーの実演等を通して、科学の楽しさが提供できる施設運営を行います。
- ・記憶に残る体験を幅広い世代に提供するため、実体験を通じた魅力的なイベントを企画・実施します。

【主な事業】

科学館運営、サイエンスショー、サクリエ・サイエンス・フェスティバル、宇宙少年団、天文啓発・普及事業、アウトリーチ、科学体験事業、工作体験事業、特別イベント（夏、冬）、ミニ企画展示 ほか

② 連携・協働、支援事業

5年後に目指す姿

科学・天文に関する専門的な知識等を持つ団体や個人との連携・協働を拡充し、来館者により多くの科学分野を提供することで、施設の更なる魅力向上が図られています。

施策 科学活動に取り組む市民や団体への支援及び協働による事業実施

【現状】

科学・天文に関する専門的な知識を持つ団体との連携により、更なる施設の魅力向上を図っています。より多様な分野の展示や体験を来館者に提供するため、連携団体数を増やしていく必要があります。

また、個人ボランティアの協力を得て、科学・天文をより魅力的に伝えることができますが、その分野が限定されている状況にあるため、より幅広い分野を提供できるよう、新たな人材の確保が必要です。

【取組】

- ・より多様な分野の展示や体験を来館者に提供するために、新たな団体との連携体制の構築を進めます。
- ・科学・天文における、より幅広い分野に関われるボランティアを確保するため、効果的な募集方法を検討・実施します。

【主な事業】

ボランティア事業、青少年のための科学の祭典、団体連携 ほか

(4) 施設管理運営事業

① 施設管理運営事業

5年後に目指す姿

施設の適正な維持・管理がされ、利用者が安心かつ快適に施設を利用できています。
また、地震のような自然災害や感染症等が発生した際には、速やかに対応できる体制が整っています。

施策

安全・安心で、気軽に快適な利用ができる施設環境と運営体制の整備
災害・感染症等のアクシデントへの対応

【現状】

日ごろから管理施設の適正な維持・管理に努めているところですが、施設や設備、展示物等の老朽化も進んでいることから、計画的な改修等が必要になっています。

自然災害や火災等に対する防災訓練を定期的に行うことで、非常時に備えるとともに、引き続き感染症等への対策を行っています。

【取組】

- ・市民が安全・安心かつ快適に利用できるよう、利用者の視点に立って、管理施設を適正に維持・管理します。
- ・施設の経年劣化や展示物等の入替等に対応するため、日立市と連携して計画的な改修・更新・修繕を行います。
- ・火災や自然災害を想定した防災訓練を定期的を実施し、職員の危機管理意識を向上させます。

② 施設利用者及び入館者増加促進事業

ア 文化施設

5年後に目指す姿

利用者の多様な要望に柔軟に対応しながら、利用者に添ったサービスを提供しています。

施設の魅力や利便性が向上し、より多くの人々が快適かつ有効に利用しています。

施策 柔軟な対応とサービス等の提供による利用者増加の促進

【現状】

利用者の要望に沿った各種サービスを提供するとともに、施設の魅力や利便性を向上させるサービスなどを開発・提供しています。

また、インターネットを通しての施設予約やコンサートチケットの購入など、多様なニーズに柔軟に対応したサービスを提供することで、利便性の向上を図っています。

さらに、市民の憩いの場として、設備の美化、スタッフの対応力向上や空間の演出など、施設の魅力向上に努め、入館者の増につなげています。

【取組】

- ・施設利用コーディネーターによる、利用者の多様な要望に対応したサービスを提供します。
- ・施設の魅力向上に向けた、設備の美化を行います。
- ・多様な要望に対応するため、新たなサービスを開発・提供します。

イ 科学施設

5年後に目指す姿

個人や団体を問わず、市内外から幅広い年代の人々が数多く来館し、科学の楽しさに触れています。

施策 個人・団体の入館者増加の促進

【現状】

年間を通して最も集客が見込める夏休みにおいて、人気キャラクターのプラネタリウム番組の上映や、子どもに限定した無料クーポンを発行することで、親子連れを中心に多くの入館を得られています。

また、団体利用向けの情報をホームページに掲載し、SNS等で広域に向け発信することで、年間を通し校外学習等の利用につながっています。しかし、団体利用の予約方法は、現在電話のみとなっていることで、利便性を欠いていることから、予約方法の見直しが必要です。

【取組】

- ・夏休みにおいて、人気キャラクターのプラネタリウム番組の上映や、子どもに限定した無料クーポンの発行を行います。
- ・小学校等の遠足に加え、学童クラブや福祉施設などの利用も増えていることから、より多くの団体の利用を促進します。
- ・団体予約については、電話に加え、インターネット上での受付ができる仕組みを整備します。

(5) 情報発信・広報

① 情報発信・広報

5年後に目指す姿

各種広報媒体を効果的・効率的に活用した情報発信を行い、ターゲットにその情報が届いています。

施策 様々な手法による事業と施設の情報発信

【現状】

従来からのチラシ・ポスター、広報誌、市報等の紙媒体による情報発信だけでなく、ホームページや SNS などのデジタル媒体による情報発信に努めていますが、情報を必要としている市民に情報が確実に届けられていない状況です。

【取組】

- ・事業のターゲットに応じた、広報媒体を効果的に活用して、情報発信を行います。
- ・ステークホルダーの目に留まることを意識した、発信方法や発信内容を工夫します。
- ・ホームページや SNS を積極的に活用して、広域的広報を強化します。
- ・財団の認知度やイメージの向上、チケットの販売促進につながるような、戦略的な広報を行います。
- ・会員制度（シビックメンバーズ）の魅力増を通じて、会員数の増加に努めます。

【主な事業】

広報・宣伝、イベントインフォメーション・イベントスケジュールの発行、Web サイト・SNS アカウントの管理運営、シビックメンバーズ ほか

(6) 収益事業

① 収益事業

5年後に目指す姿

来館者の思い出に残るオリジナルグッズ等の販売を通し、施設利用以外の楽しみを提供するとともに、販売から得た収益を財団の事業財源として活用しています。

施策 施設利用者に対しての付加価値の提供による財源の確保

【現状】

ミュージアムショップでは、イベントや天球劇場の上映内容に関連したグッズ販売を展開するとともに、オリジナル商品の開発・販売を推進していますが、収益を上げるところまでは至っていない状況です。

【取組】

- ・ イベントと連携した販売戦略の構築、ニーズに応じた商品の調査・販売やオリジナルグッズの開発・販売をすることで、収益増を図ります。

(7) 財団運営

① 創造的な組織体制の確立

5年後に目指す姿

日常業務や事業実施手法の効率化により、時間的余裕が確保され、風通しの良い職場環境と働きやすい組織が整備されています。そのような中で、職員が能力を最大限に発揮し、質の高い創造的な事業を積極的に展開しています。

施策 新たな事業展開（イノベーション）を可能にする組織体制の確立

【現状】

市内に分散する3つの施設において交代勤務制で働く中で、意思決定プロセスや情報共有において非効率な部分があり、職員の負担となっています。このため、グループウェアの導入等により業務効率化に取り組んでいますが、今後も継続的に取組を進めることが必要です。

また、働き方改革を推進する中で、職員がスキルを向上させ、自由な発想で事業の企画立案を行うためには、選択と集中によるバランスの取れた事業の組み立てが求められています。

【取組】

- ・デジタル技術の導入や組織体制の再編を通じて、日常業務の効率化を図ります。
- ・市民、関係機関・団体、外部の専門家やアーティスト等との連携・協働を強化し、事業をより効果的かつ効率的に推進します。
- ・業務効率化によって生み出された時間を活用し、職員のスキル向上、創造的な企画立案の促進、ワークライフバランスの確保を実現します。
- ・事業の点検・見直しを行い、選択と集中によるバランスの取れた事業の組み立てを行います。

② 財源確保

5年後に目指す姿

財源の確保により収支バランスが取れた健全な財団運営を行い、質の高いサービスを継続的に市民に提供しています。

施策 将来にわたる健全な財務運営の確保

【現状】

日立市からの管理費や事業交付金等を主な財源として、施設の管理運営や多様な事業を行う中で、収支のバランスが取れた運営を目指しています。

社会情勢の変化に伴い、市を取り巻く環境が厳しさを増す中、今後も安定した財団運営を行い、活動の成果を市民に還元していくためには、財政基盤の強化が不可欠であり、更なる財源の確保に取り組む必要があります。

【取組】

- ・経費削減や選択と集中による事業の整理を通して、効率的な財源確保を図ります。
- ・チケット等の販売促進や新たな財源の獲得につながる仕組みを構築します。
- ・事業実施における協賛金や助成金などの、外部資金の積極的な獲得に努めます。

③ 人材育成

5年後に目指す姿

柔軟な思考と広い視野、高い技能を持ち、自ら考え、行動できる職員が育ち、多種多様な事業を積極的に推進するとともに、市民から厚い信頼を得ています。

施策 人材育成計画に基づいた職員の育成

【現状】

日立市の科学、文化、芸術の創造と振興を担う財団職員としての責務を果たし、プロ意識とマネジメント能力を備え、市民に信頼される人材を育成するため、人材育成計画に基づいた職員の育成に取り組んでいます。

【取組】

- ・人材育成計画に定めた「求める職員像」である「高いプロ意識を持つ職員」、「自ら考え、行動できる職員」、「幅広い市民に信頼される職員」の育成を目指して、「研修」、「人材確保」、「適正配置・処遇」、「職場環境の整備」の4つの観点から取組を進めます。
- ・同計画に定めた「求める組織像」である「自立した組織」、「人を活かす組織」、「協働する組織」を目指して、高度な知識、経験を持ち合わせ、職員の能力が最大限に発揮される組織づくりを進めます。
- ・効果的な組織運営のために、管理監督者のマネジメント力の強化と全職員の意識改革を推進します。
- ・広い視野と柔軟な思考力等を得られるような講座・研修を提供し、職員の自己啓発につなげます。また、各職場においては、仕事を通して実践的に職員を育成する「職場研修」を推進し、職員の成長を促します。

④ 働き方改革

5年後に目指す姿

多様な働き方に対応した制度が整備されているとともに、職員は必要に応じてその制度を利用しています。

施策 多様な働き方に対応した就労環境の整備

【現状】

多様化する働き方に対し、制度の整備に取り組んでいますが、今後も柔軟に対応する必要があります。また、職員一人ひとりが、制度の目的や利点を正しく理解し、状況に応じて利用できる環境を整備することが必要です。

【取組】

- ・ 各種制度の周知と理解に努め、制度の浸透を図ります。
- ・ 働き方の新たなスタイルに、柔軟に対応します。

VII 第2次基本計画の評価

1 第2次基本計画について

基本計画は、財団の役割や存在意義を確認するとともに、事業の成果や課題について定期的に検証する必要があるため、第1次基本計画の計画期間である5年が経過したことから、将来に向け今後財団の進むべき方向性を明確にし、より効果的かつ効率的に事業を推進するために、第2次基本計画を策定しました。

したがって、第2次基本計画を評価するに当たり、その新たな展開の施策における実施状況と成果について検証しました。

2 第2次基本計画における施策の実施状況及び成果について

(1) 文化芸術事業

① 鑑賞事業

【施策】 文化芸術を鑑賞する機会の充実

【実施状況】

年度	事業数	実施事業（抜粋・略称を含む）
令和3年度	18	・涼風ガラコンサート～日本の歌とオペラ名曲選～ ・侍 BRASS 日立公演 ・HIRAIDAI Concert Tour ・上妻宏光「生一丁！」Tour
令和4年度	27	・東京フィルハーモニー交響楽団日立特別演奏会 ・ブラス エクシード トウキョウ「GAME MUSIC on BRASS」日立公演 ・大洗高校マーチングバンド「BLUE-HAWKS」サマーコンサート ・声優朗読劇 フォアレーゼン
令和5年度	34	・森高千里 2023 ツアー ・#CivicFirstNote-奇妙礼太郎 ・親子 de トコトン！～打楽器コンサート～ ・劇団仲間「森は生きている」
令和6年度	31	・初秋ひたち能と狂言 ・キーウ・クラシック・バレエ「くるみ割り人形」 ・TSUKEMEN CONCERT ・Civic Gallery 企画展「関あつしのとにかくやってみた展」

【成果】

世代ごとのニーズに合わせた事業、各施設の特性に合わせた公演や芸術性に優れたアーティストの紹介を目的としたコンサートなど、幅広いジャンルの魅力的な鑑賞事業を、多数実施しました。

② 普及事業

【施策】 文化芸術を様々な形、場所で体験し、表現する機会の提供

【実施状況】

年度	事業数	実施事業（抜粋・略称を含む）
令和3年度	17	<ul style="list-style-type: none"> ・シビックサロン ・和太鼓体験講座 ・音楽アウトリーチ
令和4年度	27	<ul style="list-style-type: none"> ・大人向けシビックサロン ・出前寄席 ・ダンスワークショップ ・学校向け各種アウトリーチ
令和5年度	23	<ul style="list-style-type: none"> ・親子で打楽器体験 ・公共ホール現代ダンス活性化事業 ・コンピューターミュージックのススメ ・ギャラリーコンサート
令和6年度	23	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土芸能育成事業（伝統芸能育成、荒馬踊り） ・アウトリーチ ・バギーコンサート ・文化サロン

【成果】

市内の小学校等に出向くなど、管理施設の内外を問わずに文化芸術を様々な形態で提供し、多くの市民が身近な場所で文化芸術に触れる機会を創出しました。

あわせて、ワークショップや講座・教室等について、マンネリ化を避けるため内容の充実を図りました

③ 活動支援事業

【施策】 文化芸術活動に取り組む団体等への支援

【実施状況】

年度	事業数	実施事業（抜粋・略称を含む）
令和3年度	15	<ul style="list-style-type: none"> ・市民音楽企画記念コンサート ・ヒタチ・マイ・ステージ ・Civic Dance Fes. 2021 ・日立市文化協会事務局
令和4年度	23	<ul style="list-style-type: none"> ・ひたち市民オペラ 25周年記念公演コンサート ・ミュージックトレイン ・Civic Gallery 企画展 ・ひたちジュニア弦楽合奏団
令和5年度	25	<ul style="list-style-type: none"> ・音のまちコンサート ・CIVIC CROSSOVER LIVE ・BigBand フェスティバル ・ひたち街角小劇場
令和6年度	17	<ul style="list-style-type: none"> ・レッツ・プラス in パティオ ・中高生のための音楽活動支援事業 ・ひたちとアジアの文化交流をすすめる会 ・日立市少年少女合唱団

【成果】

文化芸術活動に取り組む市民に発表の場を提供することで、活動の更なる活発化を促しました。また、財団の経験とネットワークを活かして文化団体の運営支援を行うことで、公演や企画の実施等をはじめとする団体活動の活性化につながるとともに、多くの市民が様々な文化芸術を享受することができました。

④ 交流事業

【施策】 文化芸術を通しての市民の交流促進

【実施状況】

年度	事業数	実施事業（抜粋・略称を含む）
令和3年度	8	・シビック・エントランスピアノ ・サンスカイ常陸多賀 ・ヒタチスターライトイルミネーション ・クリスマス親子映画会
令和4年度	11	・ひたち秋祭り ・大道芸 with サンスカイ常陸多賀 ・ニコ・カーニバル ・夏のひみつ基地
令和5年度	9	・ひたち国際大道芸 ・新都市広場賑わい創出事業 ・ひたち国際文化まつり ・サンスカイ常陸多賀
令和6年度	10	・ひたち秋祭り ・ヒタチスターライトイルミネーション ・新都市広場賑わい創出事業 ・ひたち国際文化まつり

【成果】

文化芸術に関する特色ある事業の実施を通して、市民の交流を促進し、交流人口の拡大と地域活性化を促しました。また、ひたち秋祭りの実施内容の一部刷新や、交流・賑わい創出を目的とし、定期的に人が集うイベント等を行ったことで、市民がより気軽に文化芸術に触れることができる場を提供しました。

⑤ 情報発信収集事業

【施策】 様々な文化芸術の情報発信と収集

【実施状況】

年度	実施事業（抜粋・略称を含む）
令和3年度	・広報・宣伝 ・定期発行物（イベントインフォメーション、ひたちの文化ほか）
令和4年度	・WEBサイト運用 ・県北地区文化会館交流事業
令和5年度	・ホームページサイト運用 ・シビックメンバーズ
令和6年度	・ホームページサイト運用 ・定期発行物（イベントインフォメーション、年間スケジュール広報紙準備） ・インターネットチケット販売管理システム

【成果】

財団公式ホームページをリニューアルし、SNS など多様な媒体も活用しながら、分かりやすく、効果的な情報発信に努めました。

チケット販売・管理をオンライン化し、利用者が自宅等から容易にチケットの予約や購入ができるようにし、利用者の利便性の向上と販売促進に努めました。

(2) 科学事業

① 思想啓発・普及事業

【施策】 市民が科学に触れる機会の提供と環境の整備
科学的思考を様々な形、場所で体験し、表現する機会の提供

【実施状況】

年度	事業数	実施事業（抜粋・略称を含む）
令和3年度	13	・夏のイベント「謎解きはサクリエの中で」 ・特別イベント「お正月イベント」 ・タッチ・ザ・スター上映記念イベント ・春のイベント「恐竜・化石コーナー」
令和4年度	12	・サイエンスショーフェスティバル ・近代プラネタリウム誕生100年 ・科学体験事業（サクリエ☆チャレンジ ほか） ・学校等向け各種アウトリーチ
令和5年度	12	・夏の科学実験「空飛ぶ力」 ・日立サイエンスショーフェスティバル ・宇宙少年団 ・近代プラネタリウム誕生100年企画（プラネ★トーク ほか）
令和6年度	8	・サクリエ・サイエンス・フェスティバル ・科学体験事業 ・アウトリーチ ・近代プラネタリウム誕生100年企画（KAGAYA 星空写真展ほか）

【成果】

科学館・天球劇場において様々な事業を実施するとともに、地域や学校に出向いた各種体験プログラムを提供し、市民が身近な場所で科学を感じられる機会を創出しました。

天文・天球劇場の魅力を発信することを目的とした、人気声優によるトークイベントなど、新たな視点を取り入れた事業を実施したことで、若年層以外の層の来館者も多く得ることができました。

② 活動支援事業

【施策】 科学活動に取り組む市民の支援

【実施状況】

年度	事業数	実施事業（抜粋・略称を含む）
令和3年度	1	・青少年のための科学の祭典・日立大会（中止）
令和4年度	1	・青少年のための科学の祭典・日立大会
令和5年度	1	・青少年のための科学の祭典・日立大会
令和6年度	1	・青少年のための科学の祭典・日立大会

【成果】

科学、天文分野で活動する人材や、それらに興味のある青少年等に活動や発表の場を提供しました。

(3) 管理施設運営事業

【施策】 安全・安心で、気軽に快適な利用ができる施設環境と運営体制の整備

① 文化施設管理運営事業（日立シビックセンター、日立・多賀市民会館）

【実施状況・成果】

区分	実施状況・成果
施設管理	<p>《日立シビックセンター、日立・多賀市民会館》</p> <ul style="list-style-type: none">・会議室及び楽屋への Wi-Fi 設備設置により、民間企業等による Web 会議や配信を目的とした利用が増えました。・財団内に事故防止啓発チームを編成して、施設の安全点検を3か月に1度実施し、不具合箇所の発見及び修繕を行いました。また、安全意識の向上に努め、舞台現場作業時における事故ゼロを継続しました。・感染症対策や防災訓練の定期的な実施により、来館者が安全・安心に利用できる環境整備を行いました。 <p>《日立シビックセンター》</p> <ul style="list-style-type: none">・利用者が安全及び快適に施設を利用できるよう、日立市と調整して設備の更新を行いました。・新都市広場の段差の補修や階段への手すり設置などの修繕工事、マーブルホール入口やアトリウム天井の雨漏り対策工事を行い、施設の維持管理及び通行者や利用者の安全確保に努めました。・新都市広場でのイベント開催時における車両進入について、暫定的なルールを設け、安全なイベント開催に努めました。 <p>《日立・多賀市民会館》</p> <ul style="list-style-type: none">・駐車場不足を解消するため、約90台の駐車場を整備し、利便性が向上しました。・職員による定期的な安全点検を実施し、設備の簡易補修を行うなど、年間を通して、利用者が安心して利用できる環境の整備に努めました。
施設利用率向上の取り組み	<p>《日立シビックセンター》</p> <ul style="list-style-type: none">・会議室利用案内のチラシを、イベント会社や資格・検定試験の主催団体等に送付したことに加え、会議室の情報サイトへ施設の情報を掲載し、広報に努めました。その結果、企業による面接や会議等の利用が増加しました。・茨城県ケータリングカー協同組合等に対し、新都市広場へのキッチンカー出店を促すチラシを配布したことに加え、キッチンカーオーナーへの宣伝を行った結果、週末や休日だけでなく、平日にもキッチンカーが出店し、広場を中心とした施設周辺の恒常的な賑わいづくりにつながりました。・大型商業施設「ヒタチエ」のオープンに伴い、日立駅前活性化委員会と更なる連携を図った結果、新都市広場において多くのイベントが開催され、日立駅前の賑わいづくりに大きく貢献しました。・施設利用コーディネーターが利用者へきめ細かいサービスを提供することで、ミュージックビデオの撮影や大規模イベント対応など多岐にわたるニーズに応えました。

サービス向上	<p>《日立シビックセンター、日立・多賀市民会館》</p> <ul style="list-style-type: none"> 貸室予約・申請の受付に関する、Webシステムの運用を開始し、利用者の利便性が向上しました。 <p>《日立シビックセンター》</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健室の授乳室利用を開始するとともに、大型荷物の預かりサービスを始めました。 レストランの営業終了に伴い、フリースペース「LIBERTA (リベルタ)」の運用を開始し、自主活動や学習、休憩など様々な目的で、学生や若者を中心とした多くの市民に利用されました。
--------	---

② 文化施設管理運営事業（科学館・天球劇場）

【実施状況・成果】

区分	実施状況・成果
施設管理	<p>《科学館》</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学館は令和3年4月から愛称を「サクリエ」とし、リニューアルオープンしました。オープン当初は、新型コロナウイルス感染拡大期間に重なり、感染防止の対応として、午前と午後の入替え制を導入するとともに、土日祝日等については入館の事前予約制を実施するなど、来館者の密集を避ける対応を取りました。 施設の特性を活かした科学思想の普及及び啓発事業を実施するとともに、来館者が安全で快適に施設を利用できるよう施設の運営に努めました。また、近隣施設や民間企業との連携を深め、施設の更なる魅力増を図りました。 令和6年4月には JX 金属株式会社から寄贈された新規展示物の供用を開始し、来館者の人気を得ています。 <p>《天球劇場》</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年9月には経年劣化していた天球劇場のプロジェクターを更新し、映像の質の向上を図りました。
施設入館者	<p>《科学館・天球劇場》</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍からの来館者の回復、団体誘致や広域広報の取組の成果もあり、令和5年度の年間入館者数は、平成2年の開館以来、歴代最多となる 157,081 人を数え、さらに、令和6年度の年間入館者数は、前年度を上回る 175,556 人となりました。

(4) 収益事業

【施策】 施設利用者にとっての利便性向上と独自財源の確保

【実施状況・成果】

区分	実施状況・成果
館内売店運営事業	<p>《日立シビックセンター》</p> <ul style="list-style-type: none"> ミュージアムショップを運営し、地場産品を含む通常販売商品に加え、ギャラリー企画展や科学館イベントの内容に合わせた関連商品、プラネタリウム上映番組グッズの販売を行い、売上増加による採算性向上を目指しました。 独自企画のスイーツフェア等を実施しました。 SNS 等を用いた広報活動に注力し、リピーターの確保や新規顧客の獲得に努めました。
レストラン管理事業	<p>《日立シビックセンター》</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年6月まで「カフェ ハルモニア」として業務運営を行いました。 令和5年8月からは、“ゆっくりくつろげる空間”として、様々な目的で利用できるフリースペースを運営しました。

受託チケット販売事業	《日立シビックセンター、日立・多賀市民会館》 ・各施設のチケット販売窓口において、チケットの販売業務を行ったほか、近隣施設のコンサート及びイベント情報の提供を行いました。
------------	--

(5) 財団運営

① 弾力的組織体制の確立

【施策】 多種多様な事業展開を可能にする組織体制の確立

② 人材育成

【施策】 自ら考え、行動できる職員の育成

③ 財務

【施策】 将来にわたる健全な財務運営の確保

④ アクシデントに対応できる組織

【施策】 天災・感染症等のアクシデントへの対応

【実施状況】

区分	実施状況・成果
財団運営	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の健康管理及び人件費の適正な執行を図るため、職員の勤務状況及び予算の執行状況を確認しながら、時間外労働の削減に向けた対策に取り組みました。 ・令和4年4月に事務局組織を改編し、新たに施設サービス課を設置することで、施設利用率やサービス向上に向けた様々な取組を行い、施設利用者のニーズ多様化への対応に努めました。 ・職員の健康管理においては、職員の勤務状況を確認しながら、時間外労働の対策に取り組むとともに、心理専門カウンセラーを招いたカウンセリングを月1回実施しました。 ・組織運営においては、令和5年度に導入したグループウェアを本格的に運用し、情報共有の強化と円滑な業務遂行に努めました。
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な事業を企画・実施できる人材を育成し、長期的かつ総合的な観点から職員の能力開発を推進していくため、「研修」、「人材確保」、「適正配置・処遇」、「職場環境の整備」の4つを柱とする人材育成計画を策定しました。 ・管理監督者として必要な知識の習得及び再確認することを目的として、課長補佐及び係長に対し、法務、財務及び人事労務についての研修を行いました。また、財団の人材を守るため、全職員に対しハラスメントに関する研修を実施するなど、年間を通して、階層別、実務、派遣研修を実施しました。 ・職員が働きやすい職場環境を整えるため、育児・介護休業法の改正に伴う育児休業に関する研修を実施しました。 ・職員の資質力向上を目的とした「説明力強化セミナー」や「接遇研修」、デジタル化時代において基礎的な知識を習得することを目的とした「SNS・マーケティング研修」、管理監督職員を対象とした「管理監督者のマネジメント強化研修」などを実施しました。
財務	<ul style="list-style-type: none"> ・財源の確保を目的として、寄附金制度の運用及び各種助成金の獲得に努めました。

(6) 重点事項

《重点事項1》子どもたちの創造力を育む取組

【施策】 幼少期における新たな発見につながる体験の場をより多く提供

【実施状況】

年度	実施事業（抜粋・略称を含む）
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・侍 BRASS 日立公演 ・初めての劇場体験 本物のコンサート ・夏のひみつ基地 ・シビックサロン ・科学教室・講座事業 ほか
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・群馬交響楽団「夏休み音楽の旅」 ・子どものためのアウトリーチ ・子ども向けシビックサロン ・ダンスワークショップ ・夏の大実験「超巨大空気砲」 ほか
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・群馬交響楽団「夏のオーケストラ鑑賞会」 ・劇団仲間「森は生きている」 ・Civic gallery 企画展「絵本作家たちの青い世界展」 ・公共ホール現代ダンス活性化事業 ・親子で打楽器体験 ほか
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> ・夏のワークショップ「カラダと楽器で大合奏」 ・中高生のための音楽活動支援事業 ・バギーコンサート ・ひたち街角演劇体験会 ・ひらめき工作 ほか

【成果】

子どもたちが科学、文化、芸術に触れる機会として、従来の鑑賞型事業に加え、体験型のワークショップ、講座等を実施しました。

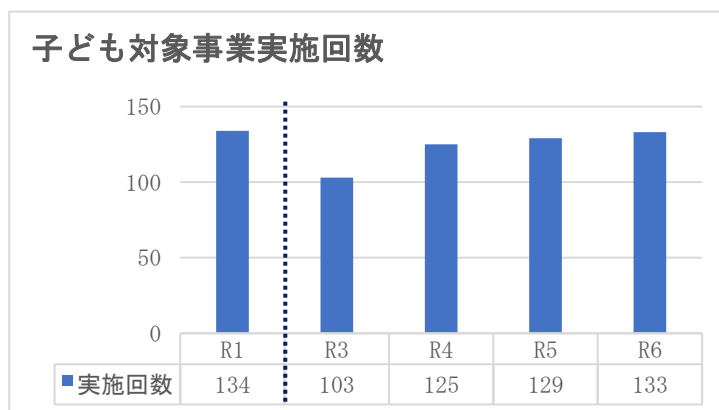
大人向けの鑑賞事業や講座・ワークショップ等であっても、将来を担う子どもたちが気軽に鑑賞又は参加できることにより、子どもたちが科学、文化、芸術に触れる機会を創出しました。

【目標に対する実績】

目標 150 事業

実績 133 事業（令和6年度）

目標には届きませんでした
が、将来の科学、文化、芸術の
担い手となる子どもたちを対象
とした事業は充実させてきまし
た。



《重点事項2》市民ニーズの多様化への取組

【施策】 多種多様なジャンルの文化、芸術事業の提供

【実施状況】

年度	実施事業（抜粋・略称を含む）
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・読売日本交響楽団演奏会 ・シビックサロン ・ヒタチ・マイ・ステージ ・サンスカイ常陸多賀 ・科学教室・講座事業 ほか
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・大洗高校マーチングバンド ・東京フィルハーモニー交響楽団演奏会 ・ひたち市民オペラ 25周年記念公演 ・大道芸 with サンスカイ・イルミネーション ・シビックメンバーズ ほか
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・新日本フィルハーモニー交響楽団 ・森高千里 2023 ツアー ・ひたち国際大道芸 ・新都市広場賑わい創出事業 ほか
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> ・キーウ・クラシック・バレエ ・ニューイヤークンサート ・清塚信也&吉田翔平デュオコンサート ・お笑いカーニバル ・大人向けシビックサロン ほか

【成果】

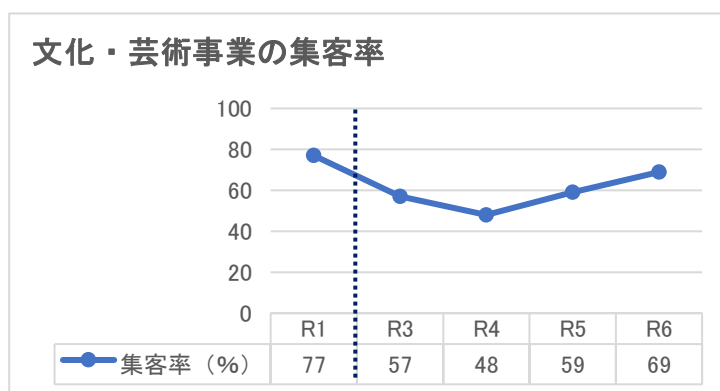
多様化する市民ニーズに対応すべく、管理する3施設において、それぞれの施設の特徴に合わせ、コンサートをはじめとする鑑賞事業や流行に合わせたワークショップ、新都市広場を中心とした賑わい創出事業等を実施しました。特に、日立駅前の賑わい創出については特に意識して事業を進め、財団の主催事業のほか、日立駅前活性化委員会との共催により、新都市広場において、各世代をターゲットとした各種イベントを実施しました。

【目標に対する実績】

目標 80%以上

実績 69%（令和6年度）

コロナ禍の影響も大きく、目標には届きませんでした。近年は回復傾向にあります。引き続き的確なニーズの把握に努め、事業企画に反映するとともに、広報等の強化が必要です。



《重点事項3》青少年・働き盛り世代のイベント参加者数増加をめざす取組

【施策】 ライフスタイルに合わせたイベントの企画立案

【実施状況】

年度	実施事業（抜粋・略称を含む）
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・平井大コンサート ・タッチ・ザ・スター上映記念～プラネ番組上映&トークショー ・シビックサロン ・MUSIC Carnival ほか
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラス エクシード トウキョウ「GAME MUSIC on BRASS」日立公演 ・街角小劇場 10周年記念公演「いつでも夢を～吉田正と喜代子の夢～」 ・声優朗読劇 フォアレーゼン ～助川海防城哀歌～ ・シビックギャラリー企画展 ほか
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・#CivicFirstNote - 奇妙礼太郎 ・CIVIC CROSSOVER LIVE ・青少年のための音楽活動支援事業 ・近代プラネタリウム誕生 100年企画 ・科学館冬の特別イベント「透明標本展」 ほか
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> ・LEO 箏リサイタル ・ニューイヤーコンサート ・大人のためのダンスワークショップ ほか

【成果】

財団主催の事業への青少年や働き盛り世代の参加者が少ないことから、その世代の参加を促す事業を実施しました。その世代が興味を持っているものはもちろんのこと、これまで実施してこなかったジャンルの公演・講座等を実施し、施設に来館したことのない層の参加を狙いました。

事業によっては、遠方からの来場者も多くあり、財団の認知度向上に努めました。

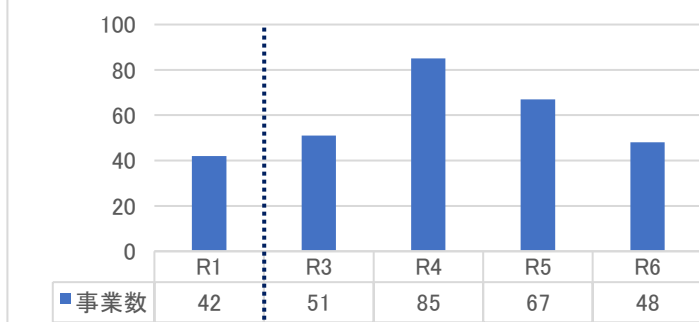
【目標に対する実績】

①目標 50 事業

実績 48 事業（令和6年度）

目標を越えた年度もありましたが、近年は減少傾向にあります。引き続き的確なニーズの把握に努め、企画に反映する必要があります。

①青少年・働き盛り世代の対象の事業数

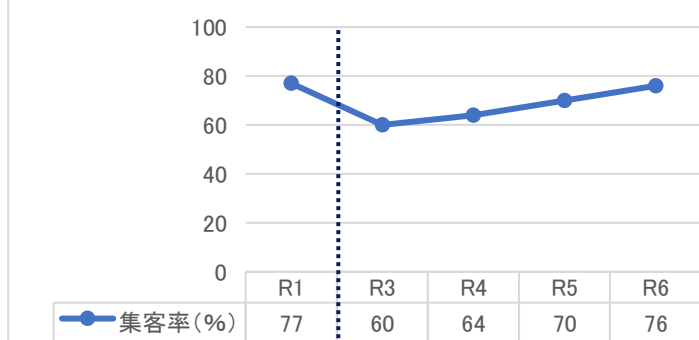


②目標 80%以上

実績 76%（令和6年度）

コロナ禍の影響も大きく、目標には届きませんでした。近年は回復傾向にあります。絶えず変化するニーズの的確な把握に努め、事業企画に反映する必要があります。

②実施定員に対する集客率



《重点事項4》科学をわたちの新しい文化にするための科学館の取組

【施策】 遊びながら学ぶ科学館

【実施状況】

年度	実施事業（抜粋・略称を含む）
令和3年度	・リニューアルオープン ほか
令和4年度	・近代プラネタリウム誕生100年企画（3か年事業） ・各種団体との連携 ほか
令和5年度	・冬の特別イベント「新世界『透明標本』展」 ・団体利用促進 ほか
令和6年度	・サクリエ・サイエンス・フェスティバル ほか

【成果】

国の交付金を利用して2年間かけて展示物を刷新し、令和3年4月にリニューアルオープンしました。

メインターゲットである小・中学生だけでなく、高校生・大学生に対しては研究や研究発表活動の利用を進めました。（茨城大学工学部、日立工業専修学校、日立一高スーパーサイエンスハイスクールなど）

近隣館や市・民間団体等と連携して科学館の館内で様々な科学的テーマの展示や体験ブースを実施しました。（日立市天気相談所、大強度陽子加速器施設 J-PARC、原子力科学館 ほか）

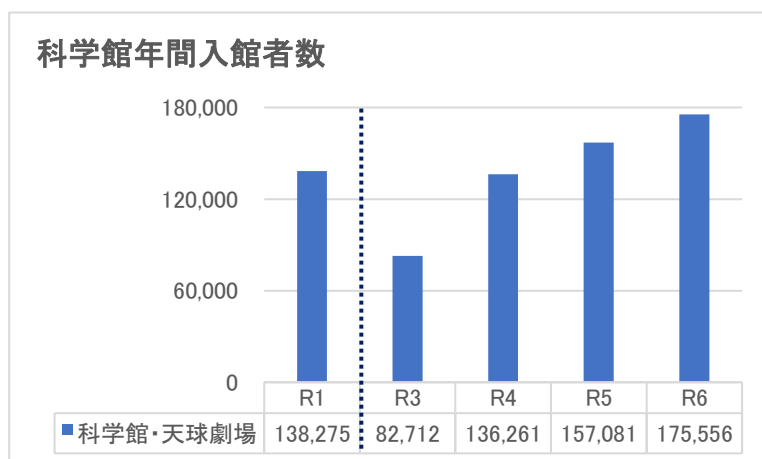
コロナ禍の影響により、各種制限もあったため、当初、入館者数は低迷しましたが、コロナの状況が落ち着いてきたとともに、科学館のリニューアル効果が現れ始め、令和6年度は平成2年の開館以来、最高の入館者数を達成しました。また、近年の傾向として繁忙期（夏休み等）以外も、天候にかかわらず多くの入館者があったことも入館者数更新の要因として挙げられます。

【目標に対する実績】

目標 200,000人

実績 175,556人（令和6年度）

コロナ禍の影響により各種制限もあったため、入館者数は低迷しました。しかしながら、近年はコロナの状況が落ち着いてきたことに加え、リニューアル効果もあり、目標には届きませんでしたが、令和6年度は平成2年の開館以来、歴代最多の入館者となりました。



VIII 資料編

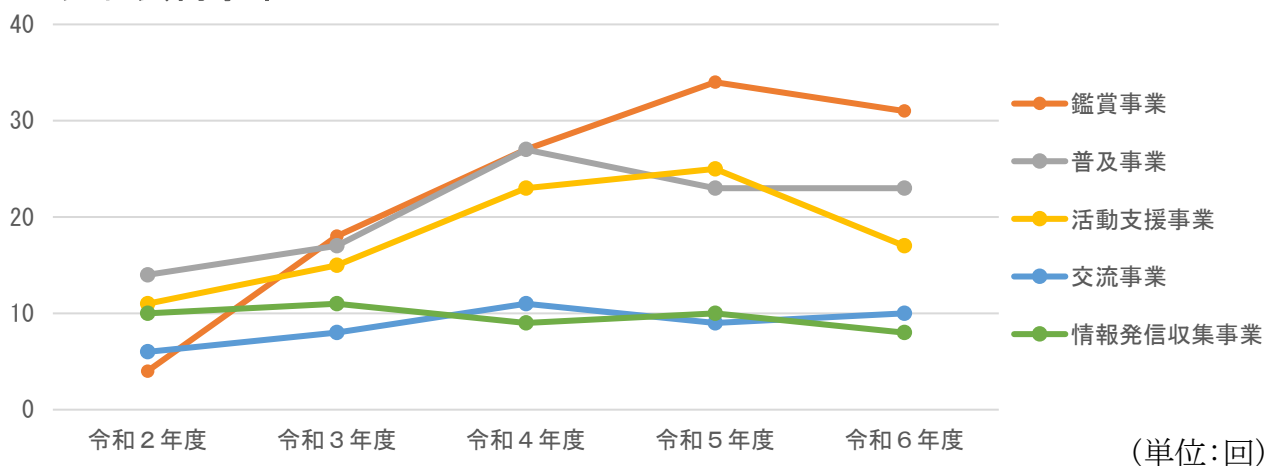
1 策定経過

年	月	日	財団内での検討・研修・市民アンケート	理事会・評議員会
令和6年 (2024年)	7	25	●課長会議 第3次基本計画策定に向けて	
	8	8	●経営企画会議 第3次基本計画策定に向けて	
		19	●課長グループ、ワーキンググループ設置	
		29	●課長グループ① 第3次基本計画策定の進め方、中間報告及び課題の抽出	
	9	19	●ワーキンググループ① 第3次基本計画策定の進め方、中間報告及び課題の抽出	
		26	●課長グループ② 中間評価の確認作業 ●ワーキンググループ② 中間評価の確認作業	
	10	16	●公文協研修会①(支援員:垣内恵美子氏) テーマ:文化政策の変化	
		24	●課長グループ③ 市民アンケート実施について	
	11	7	●ワーキンググループ③ 市民アンケート実施について	
		27	●公文協研修会②(支援員:垣内恵美子氏) テーマ:第2次基本計画の令和5年度までの中間報告から見える課題と対処の方策	
		28	●課長グループ④ 第2次基本計画の評価	
	12	5	●ワーキンググループ④ 第3次基本計画の評価	
令和7年 (2025年)	1	31	●市民アンケート実施(～3.16) ・回答数1,782件(WEB1,465件、用紙記入317件)	
	2	18		●定時理事会 第3次基本計画策定について
	3	6	●ワーキンググループ⑤ 広報、アンケートの途中経過	
	4	2	●課長グループ⑤ 事業体系・事業整理についての検討会	
		9	●課長グループ⑥ 経営方針についての検討会	
	5	22	●課長グループ⑦ 基本計画骨子案確認	
	6	10		●定時理事会 基本計画骨子案説明
		25		●定時評議員会 基本計画骨子案説明
	7	24	●課長グループ⑧ 基本計画骨子案の見直し	
	8	28	●課長グループ⑨ 基本計画骨子案確認	
	9	19	●公文協研修会③(支援員:垣内恵美子氏) テーマ:令和6年度までの成果から見える課題と第3次基本計画に向けて	
		25	●ワーキンググループ⑥ 基本計画素案作成作業 ●課長グループ⑩ 基本計画素案作成作業	
	10	22	●ワーキンググループ⑦ 基本計画素案作成作業	
		23	●課長グループ⑪ 基本計画素案作成作業	
		29	●公文協研修会④(支援員:垣内恵美子氏) テーマ:事業評価	
	11	27	●課長グループ⑬ 基本計画素案確認作業	
12	11	●経営企画会議 基本計画素案説明		
	25	●課長グループ⑭ 基本計画素案訂正		
(2026年) 令和8年	1	18		●役員意見聴取(～1.31)
	2	9	●第3次基本計画案作成	
		17		●定時理事会 第3次基本計画案決議
	3			●臨時評議員会 第3次基本計画案報告(予定)

2 令和2年度から令和6年度までの各種数値の推移

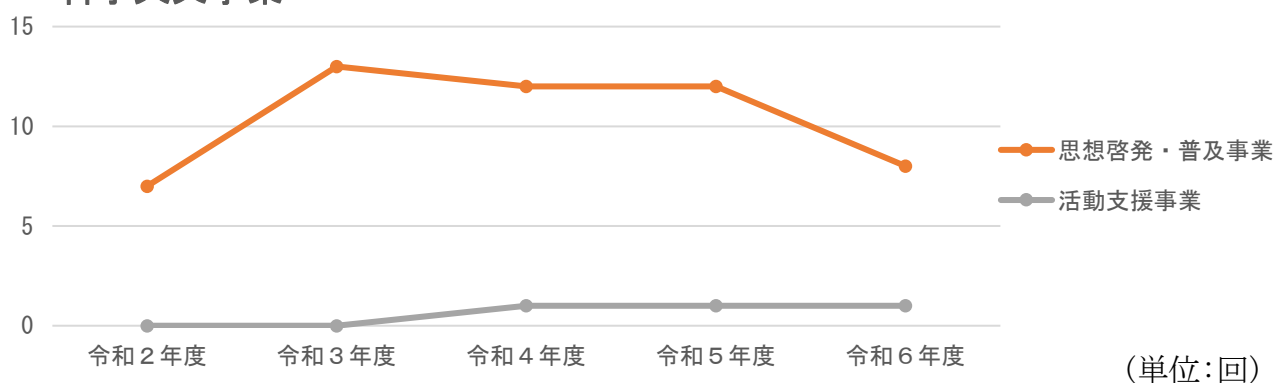
(1) 自主企画事業実施数

文化芸術事業



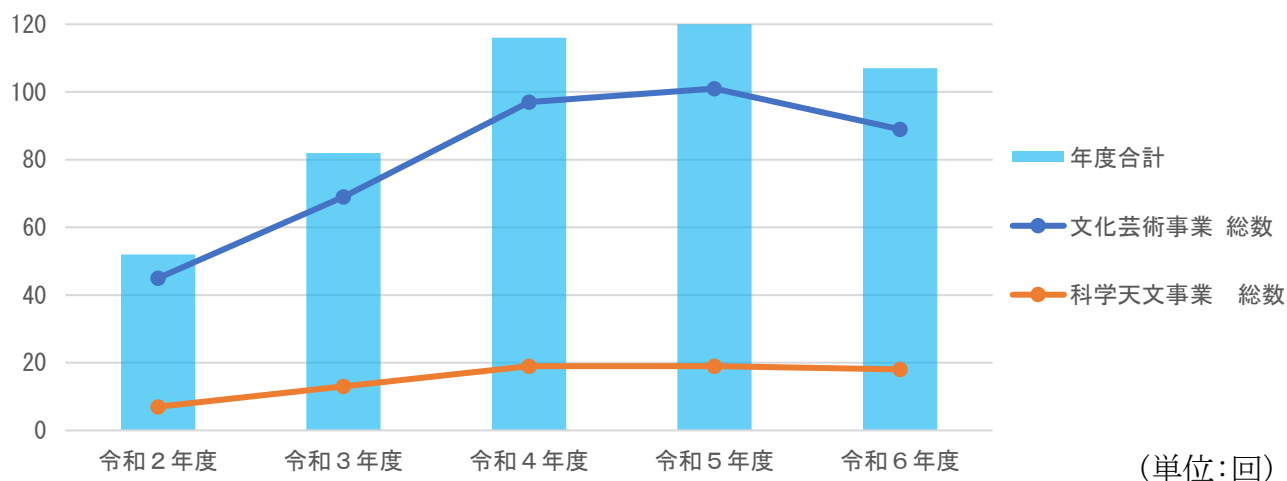
事業項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合計
鑑賞事業	4	18	27	34	31	114
普及事業	14	17	27	23	23	104
活動支援事業	11	15	23	25	17	91
交流事業	6	8	11	9	10	44
情報発信収集事業	10	11	9	10	8	48

科学天文事業



事業項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合計
思想啓発・普及事業	7	13	12	12	8	52
活動支援事業	0	0	1	1	1	3

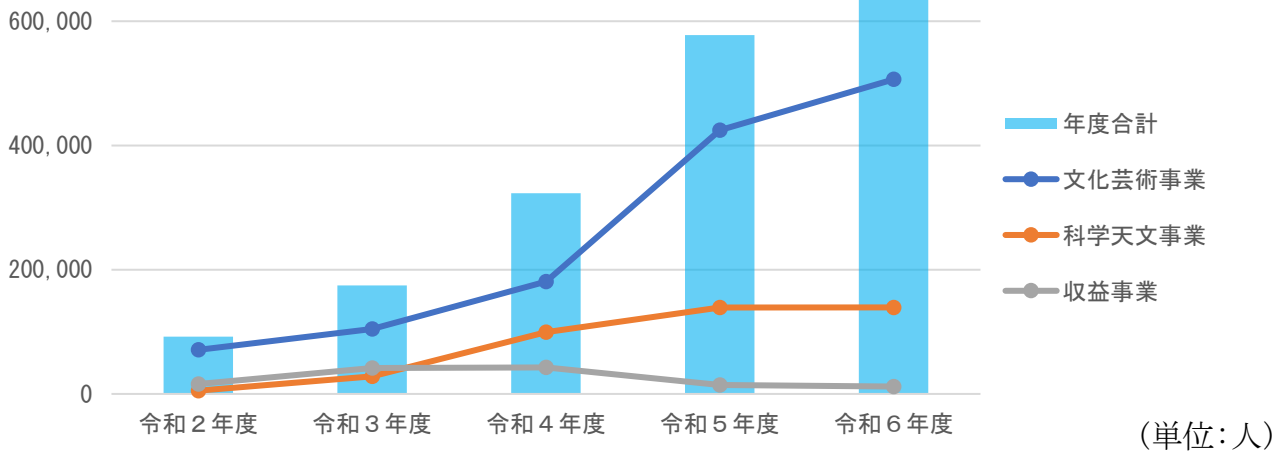
事業総数



事業項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合計
文化芸術事業(公1)	45	69	97	101	89	401
科学天文事業(公2)	7	13	19	19	18	76
年度合計	52	82	116	120	107	477

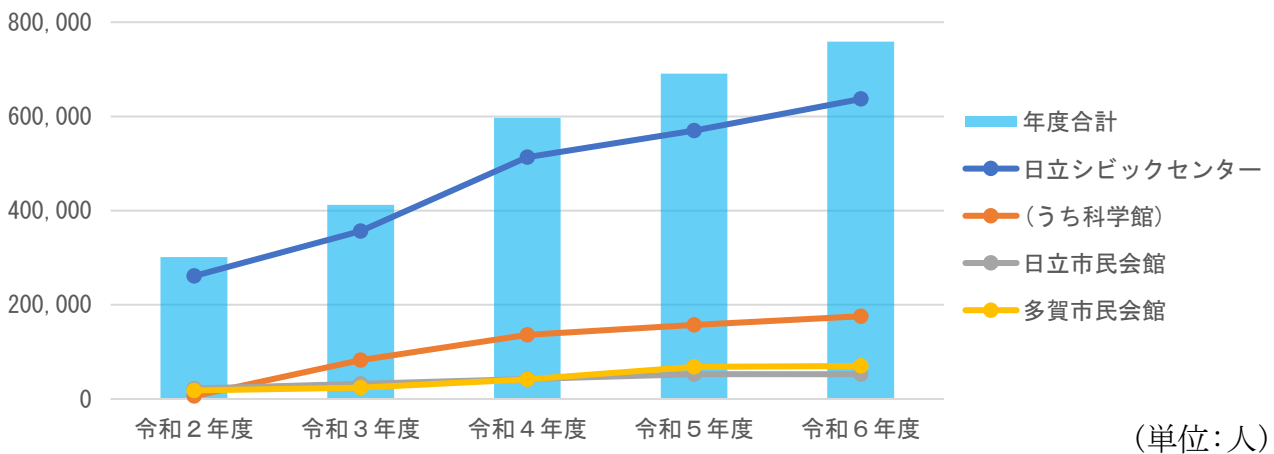
※事業実施数については、年度ごとに集計基準が異なっていたため、令和3年度の集計基準で改めて集計しました。そのため、各年度の事業報告書における数値とは異なります。

(2) 自主企画事業への参加人数



事業項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合計
文化芸術事業(公1)	70,974	104,735	180,798	424,497	506,331	1,287,335
科学天文事業(公2)	5,269	28,181	99,490	139,140	139,290	411,370
収益事業	15,819	41,772	42,653	14,268	11,925	126,437
年度合計	92,062	174,688	322,941	577,905	657,546	1,825,142

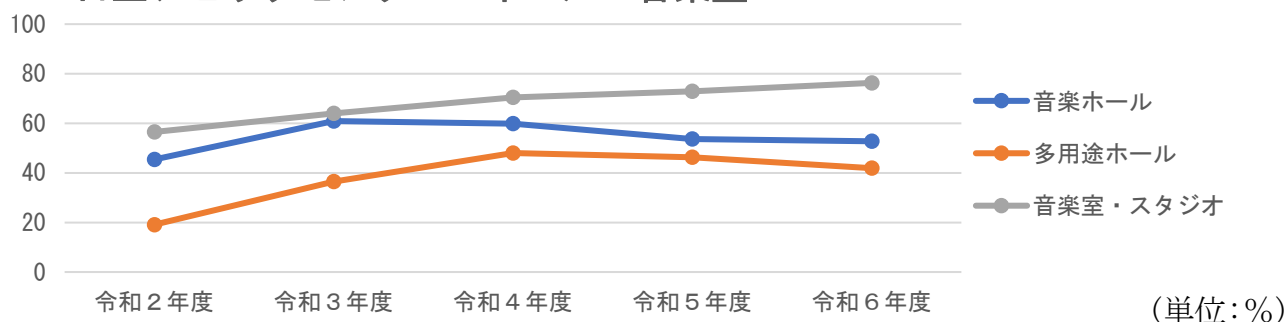
(3) 管理施設における入館者数の推移



区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	総合計
日立シビックセンター	260,939	356,324	513,511	569,849	636,838	2,337,461
(うち科学館)	6,044	82,712	136,261	157,081	175,556	557,654
日立市民会館	22,107	32,214	42,099	52,639	52,199	201,258
多賀市民会館	18,113	23,675	41,380	68,233	69,996	221,397
年度合計	301,159	412,213	596,990	690,721	759,033	2,760,116

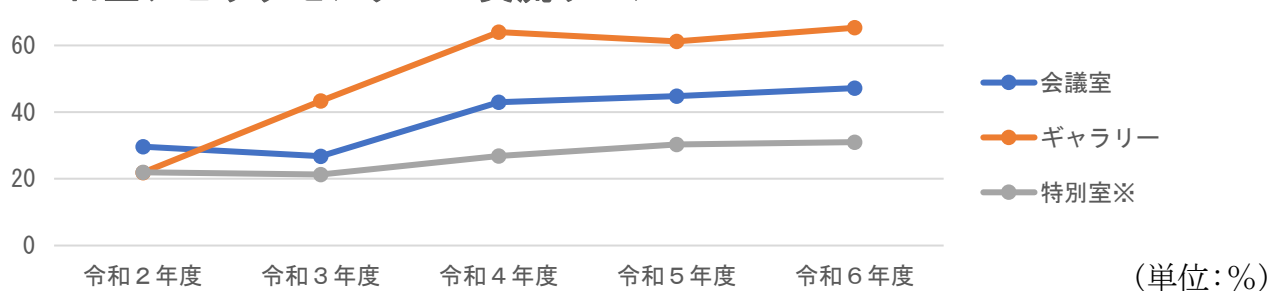
(4) 管理施設における利用率の推移

日立シビックセンター ホール・音楽室



区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	平均
音楽ホール	45.4	60.9	59.8	53.7	52.8	54.5
多用途ホール	19.1	36.5	48.0	46.3	41.9	38.4
音楽室・スタジオ	56.5	64.0	70.4	72.9	76.3	68.0

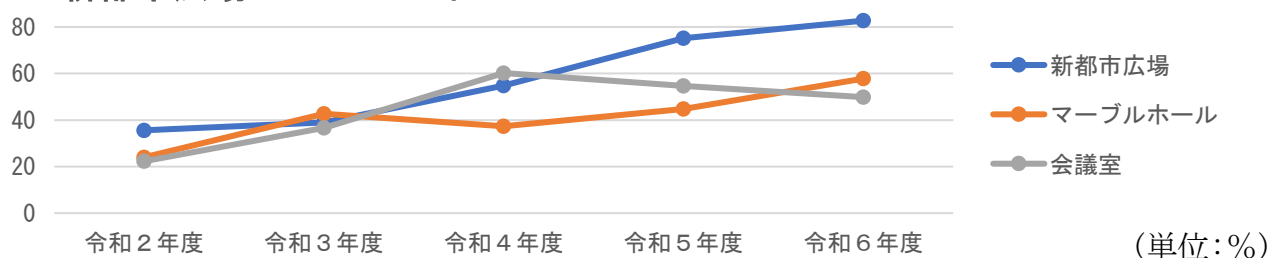
日立シビックセンター 交流サロン



区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	平均
会議室	29.6	26.8	43.0	44.8	47.2	38.3
ギャラリー	21.9	43.4	64.0	61.2	65.3	51.2
特別室※	22.0	21.3	26.9	30.3	31.0	26.3

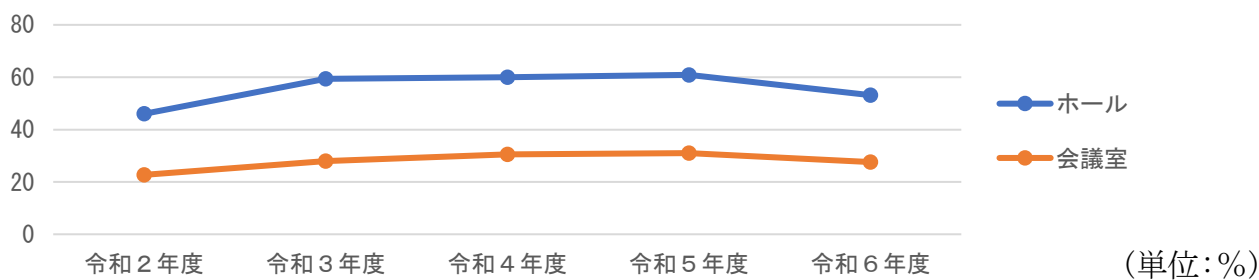
※料理室、トレーニングルーム、茶室、和室

新都市広場・マーブルホール



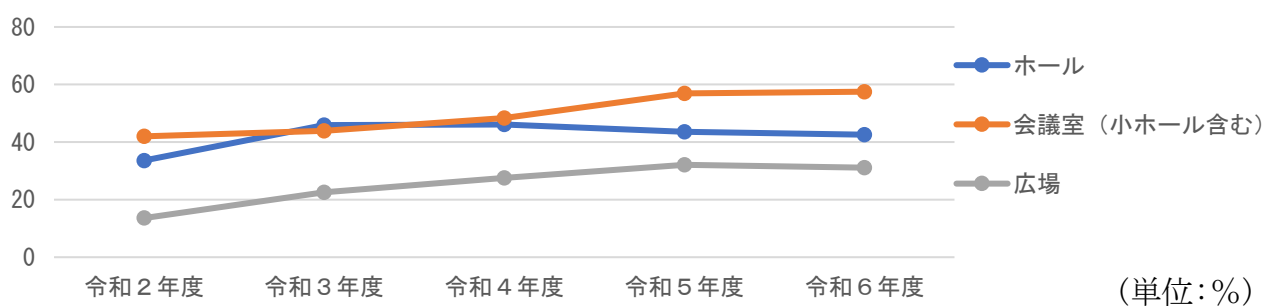
区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	平均
新都市広場	35.6	39.0	54.8	75.1	82.7	57.4
マーブルホール	24.0	42.7	37.3	44.8	57.8	41.3
会議室	22.3	36.7	60.2	54.6	49.9	44.7

日立市民会館



区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	平均
ホール	46.0	59.4	60.0	60.9	53.1	55.9
会議室	22.7	28.0	30.5	31.0	27.6	28.0

多賀市民会館



区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	平均
ホール	33.6	45.9	46.1	43.6	42.6	42.4
会議室	42.0	43.9	48.4	56.9	57.5	49.7
広場	13.6	22.6	27.5	32.1	31.1	25.4

3 公益財団法人日立市民科学文化財団に関するアンケート

(1) 調査目的

第3次基本計画を策定するに当たり、市民の意見を反映するとともに、今後の事業立案のための基礎資料とします。

(2) 調査方法等

●調査方法

NO	媒体	実施方法	主な対象者
1	WEB アンケート	・財団ホームページからアンケート フォームにより回答	・ホームページ閲覧者 ・事業参加者 ・幼、保、小、中のPTA (教員含む) ・高校、大学、短大等の学生
2	アンケート用紙	・シビックセンター、日立市民会館、 多賀市民会館の1階にアンケート コーナーを設置 ・財団事業のプログラムに折り込み	・来館者 ・市内コミュニティ推進会役員 ・市内商工業者 (会議所ニュース) ・財団管轄市民団体 ・財団事業参加者(事業時配布)

●調査期間

・令和7年1月31日(金)～3月16日(日)

●調査対象

・10歳以上(小学校5年生以上)

●回答数

・回答数 1,782枚(WEBアンケート 1,465件、アンケート用紙 317件)

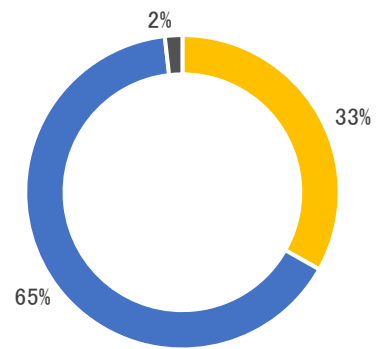
(3) 調査結果

①あなたについてお伺いします

問1 性別

回答数=1,782

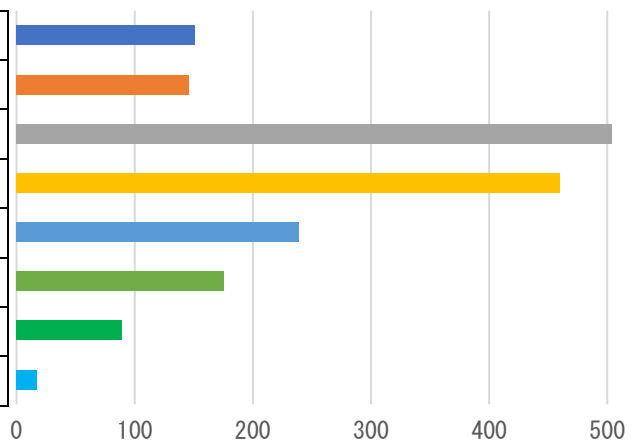
● 男性	591 件	(33%)
● 女性	1,159 件	(65%)
● 回答しない	32 件	(2%)



問2 年齢

回答数=1,782

● 10代	151 件	(8%)
● 20代	146 件	(8%)
● 30代	504 件	(29%)
● 40代	460 件	(26%)
● 50代	239 件	(13%)
● 60代	176 件	(10%)
● 70代	89 件	(5%)
● 80代	17 件	(1%)



問3 居住

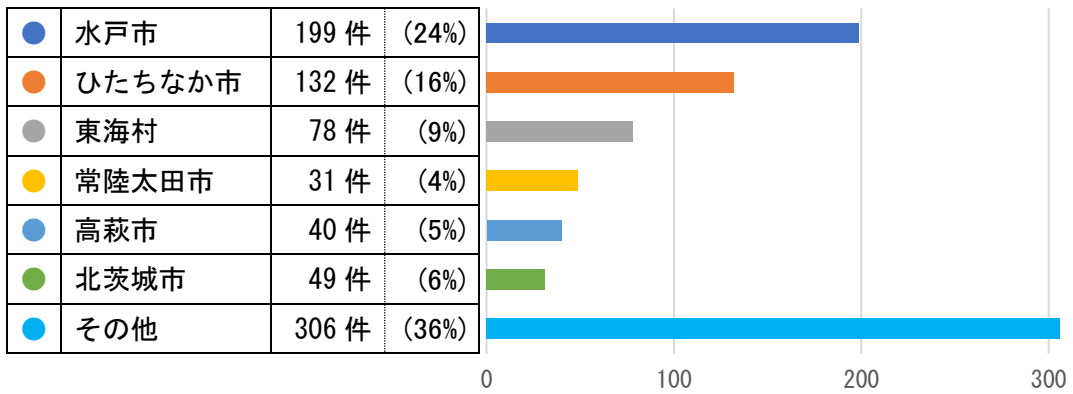
回答数=1,782

● 市内在住	947 件	(53%)
● 市外在住	835 件	(47%)



問4 (問3で市外在住と回答) 居住の詳細

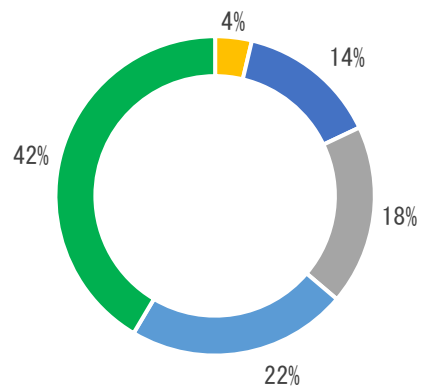
回答数=835



問5 居住歴

回答数=1,782

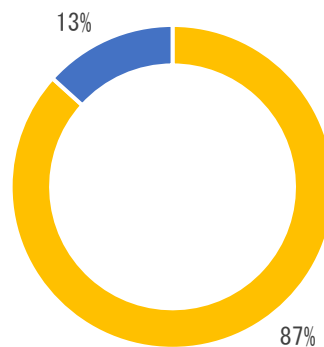
●	1年未満	66件	(4%)
●	1～5年	254件	(14%)
●	6～10年	325件	(18%)
●	11年～20年	398件	(22%)
●	21年以上	739件	(42%)



問6 文化、芸術について

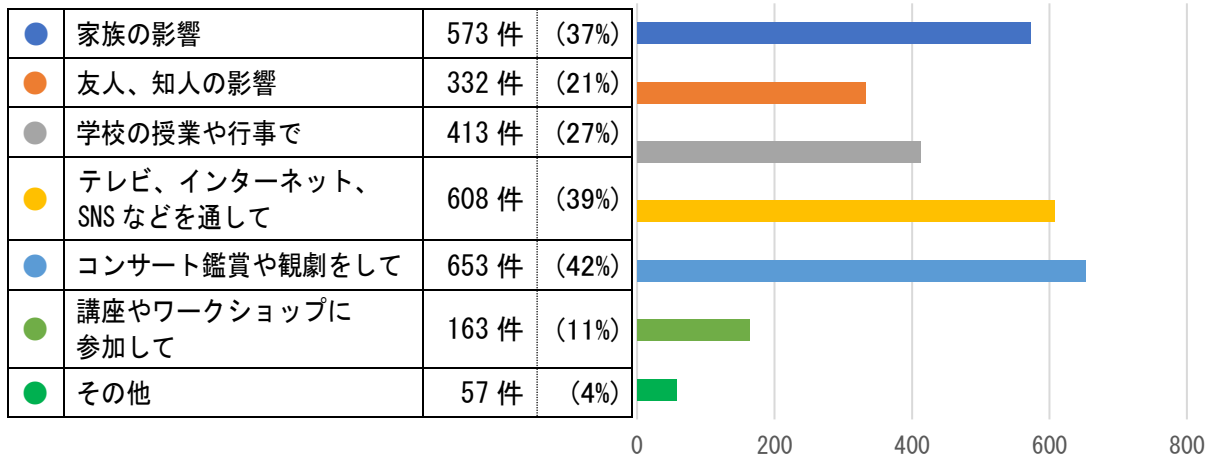
回答数=1,782

●	興味がある	1,545件	(87%)
●	興味がない	237件	(13%)



問7 (問6で興味があると回答)文化、芸術に興味を持ったきっかけを教えてください(複数回答可)

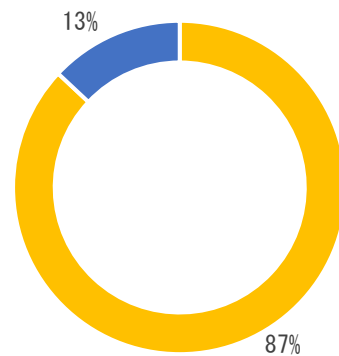
回答数=1,545 (総回答数=2,799)



問8 科学、天文について

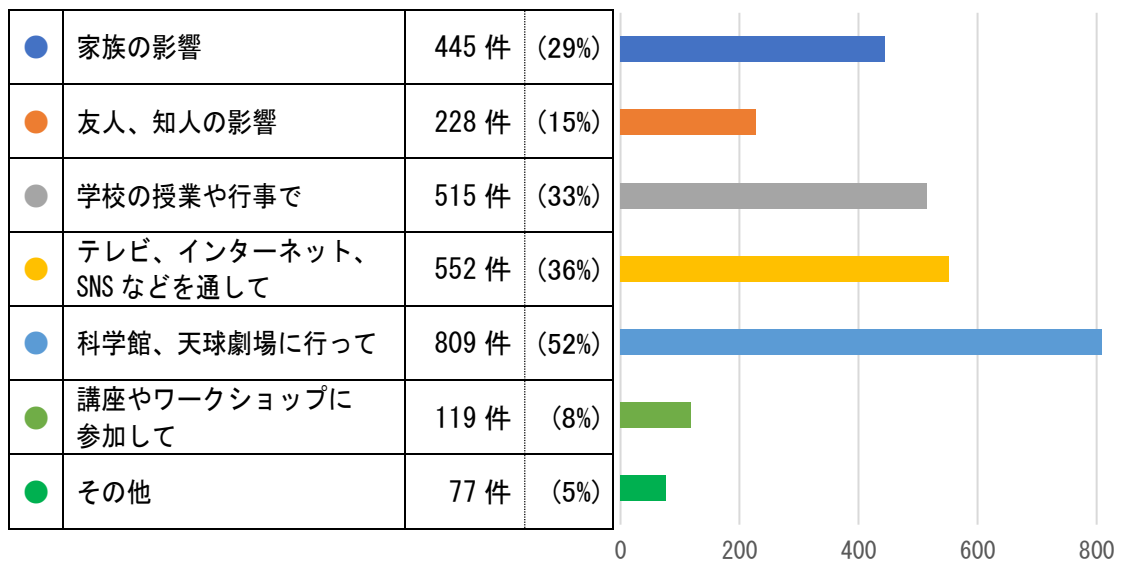
回答数=1,782

●	興味がある	1,550件	(87%)
●	興味がない	232件	(13%)



問9 (問8で興味があると回答) 科学、天文に興味を持ったきっかけを教えてください (複数回答可)

回答数=1,550 (総回答数=2,745)

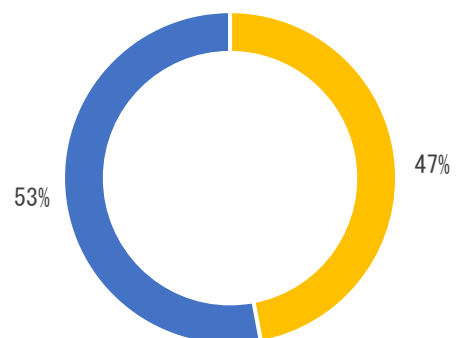


②財団及び財団 (日立シビックセンター、日立・多賀市民会館) 主催事業についてお伺いします

問10 あなたはこの財団を知っていますか

回答数=1,782

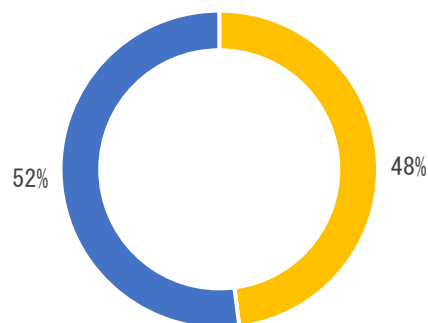
●	知っている	838件	(47%)
●	知らない	944件	(53%)



問 11 あなたは財団が主催する事業に参加したことがありますか

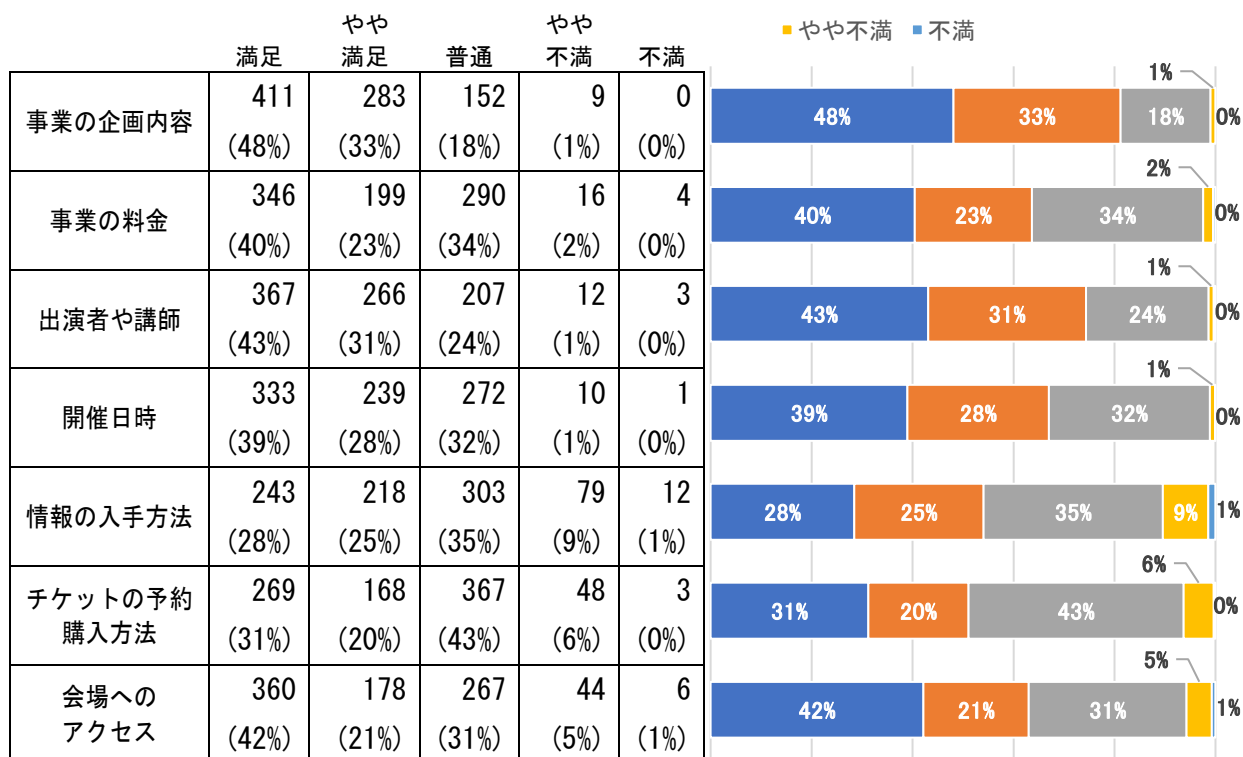
回答数=1,782

● 参加したことがある	855 件	(48%)
● 参加したことがない	927 件	(52%)



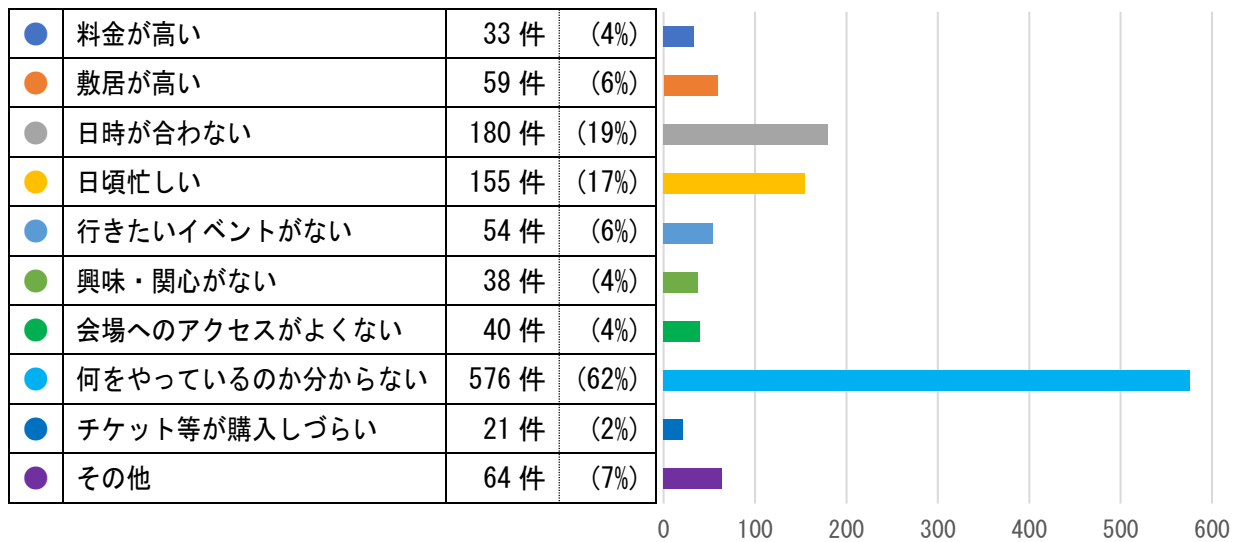
問 12 (問 11 で参加したことがあると回答) 参加された事業の満足度を教えてください

回答数=855



問 13 (問 11 で参加したことがないと回答) 参加したことがない理由を教えてください (複数回答可)

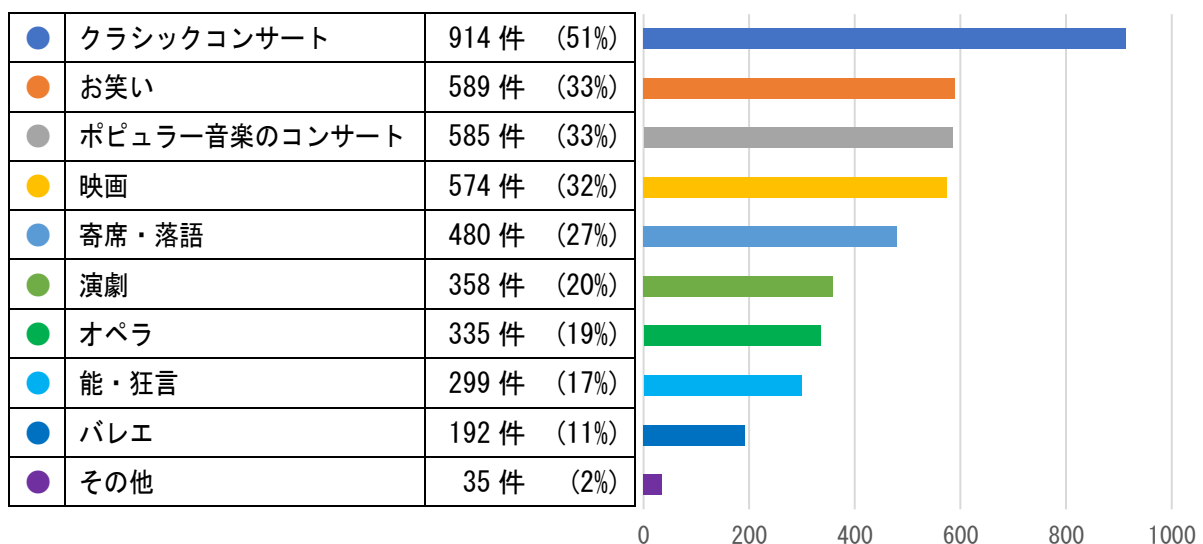
回答数=927 (総回答数=1,220)



財団が日立シビックセンター、日立・多賀市民会館で実施している主催事業のうち、あなたが知っているものを教えてください。

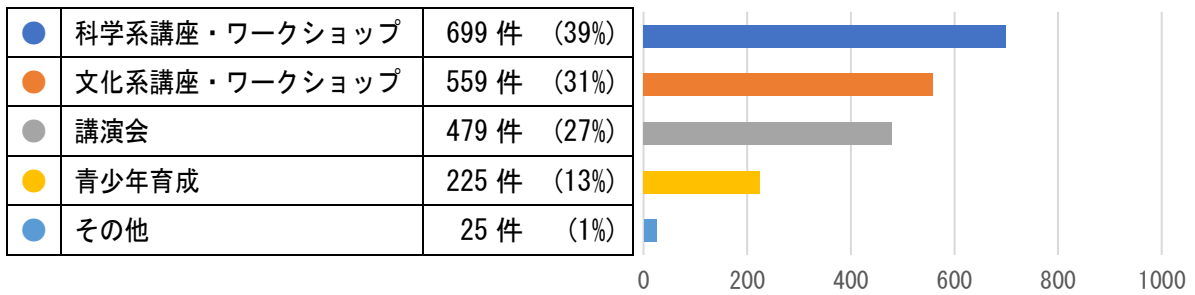
問 14 鑑賞事業 (複数回答可)

回答数=1,782 (総回答数=4,361)



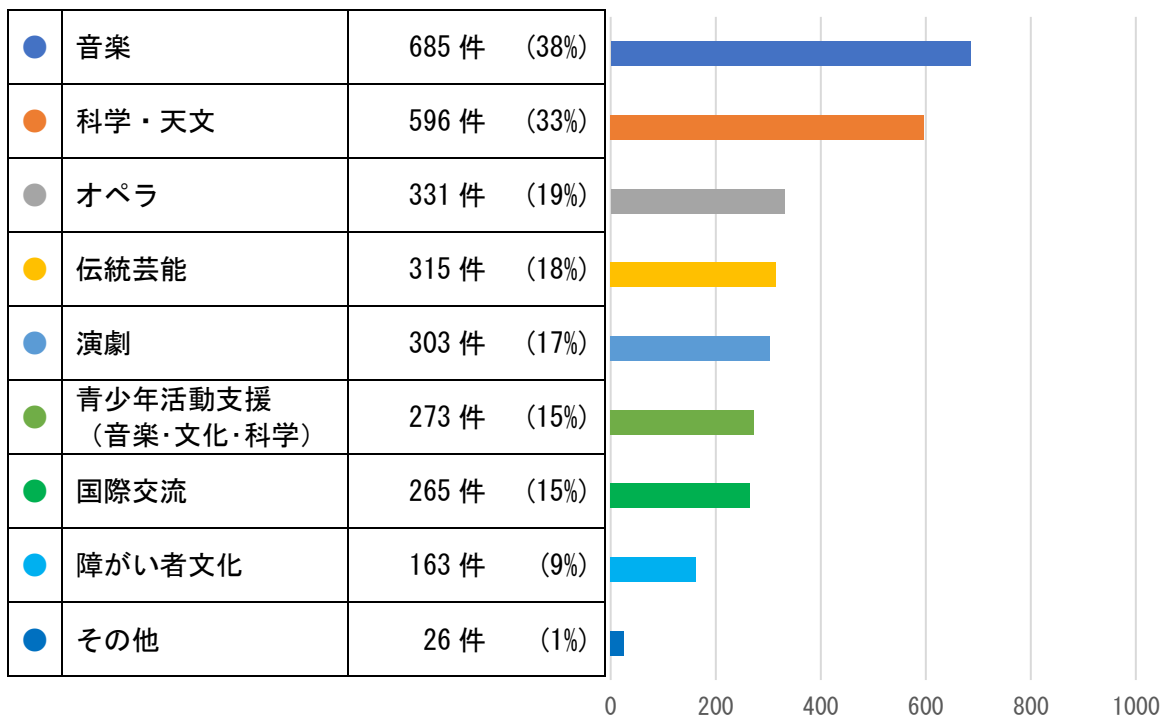
問 15 普及・啓発事業（複数回答可）

回答数=1,782（総回答数=1,987）



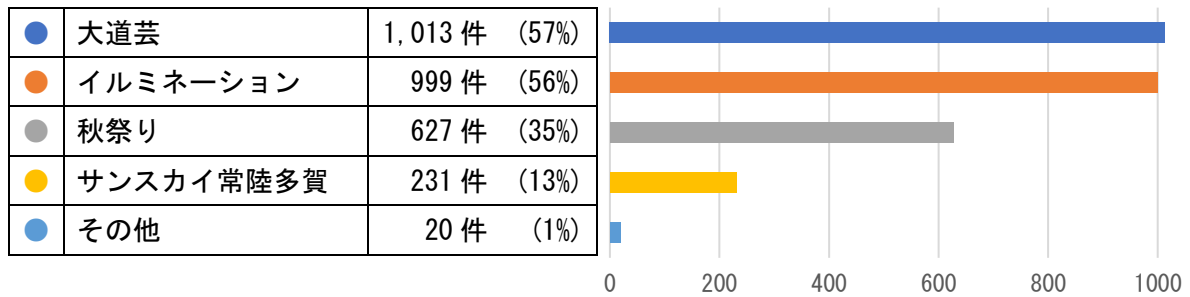
問 16 市民活動支援事業（複数回答可）

回答数=1,782（総回答数=2,957）



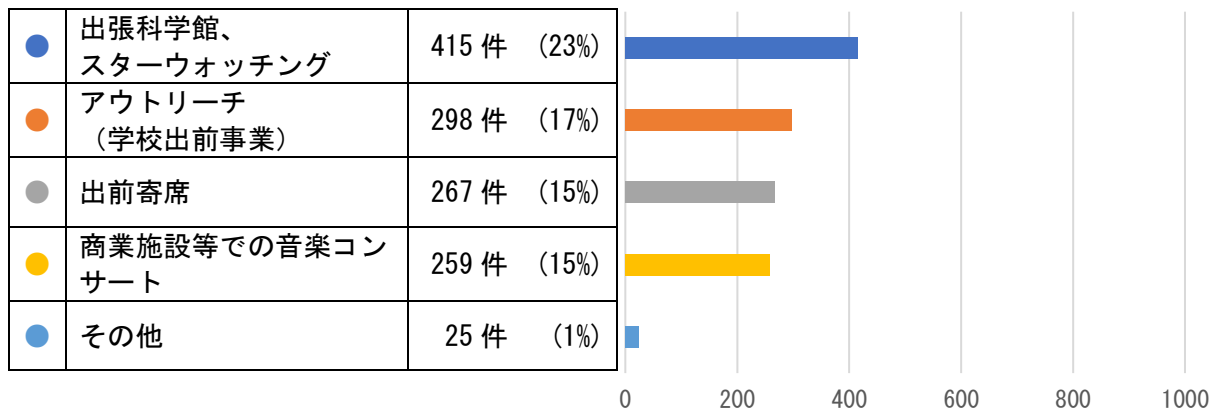
問 17 交流事業（複数回答可）

回答数=1,782（総回答数=2,890）



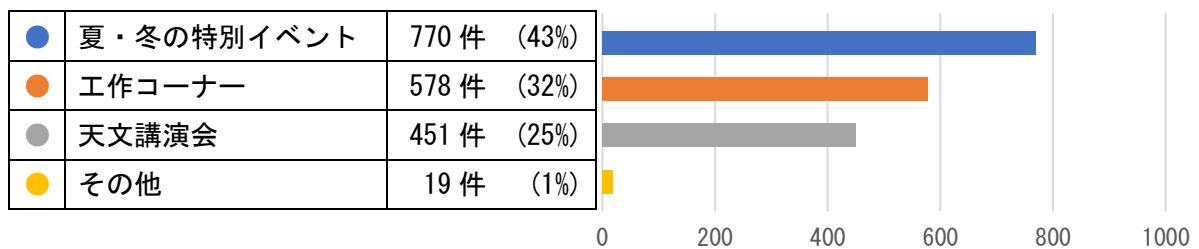
問 18 地域貢献事業（複数回答可）

回答数=1,782（総回答数=1,264）



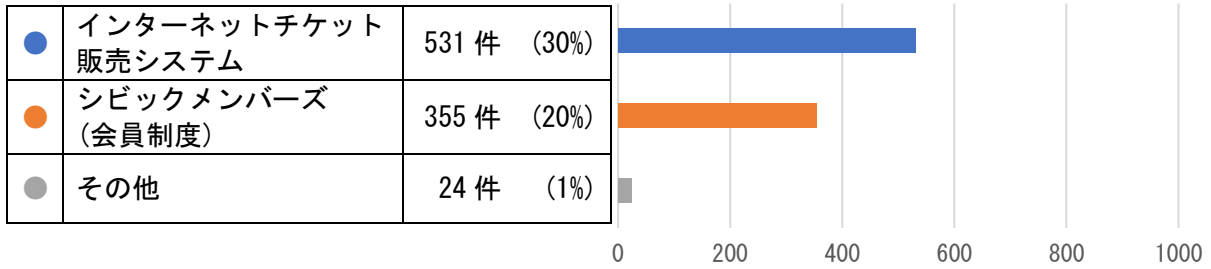
問 19 科学・天文事業（複数回答可）

回答数=1,782（総回答数=1,818）



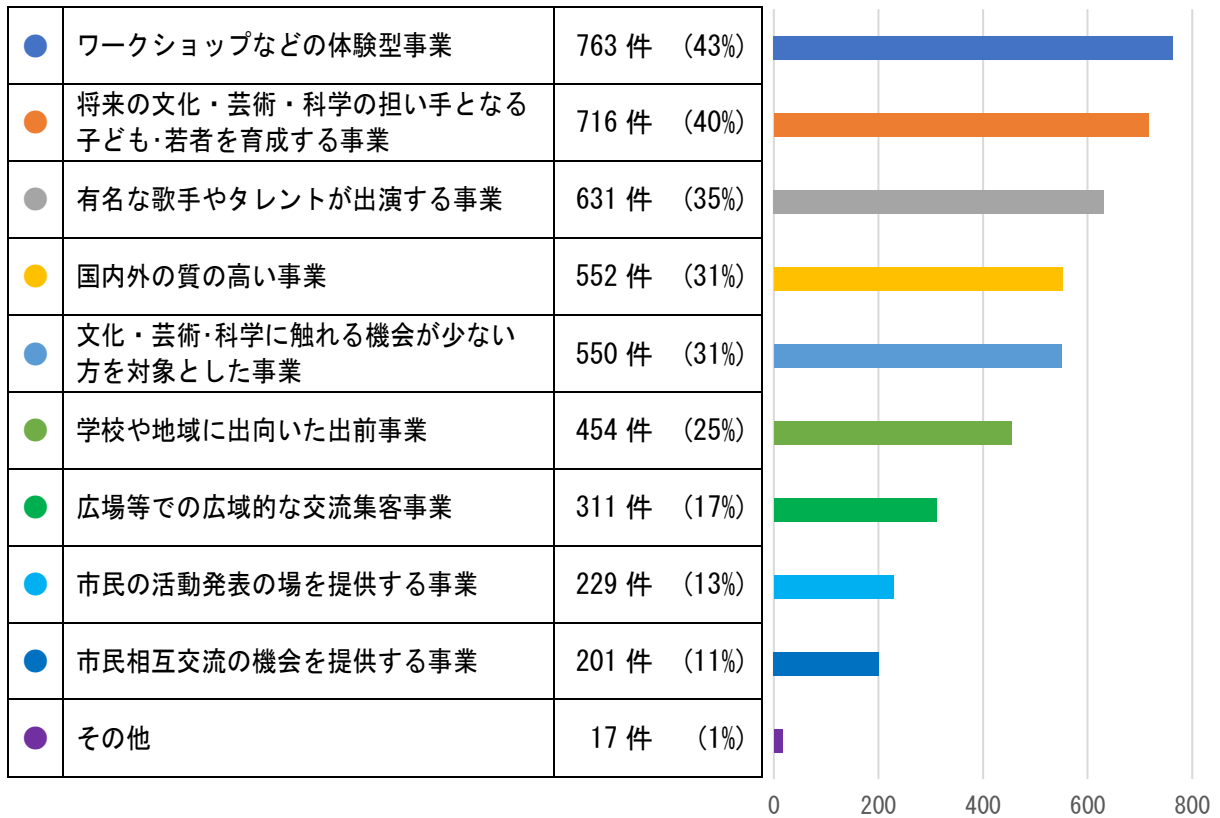
問 20 各種サービス

回答数=1,782 (総回答数=910)



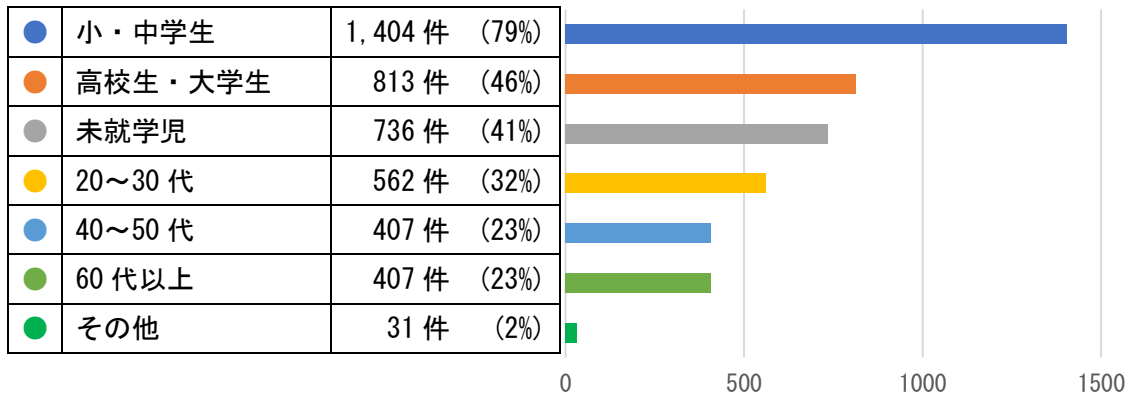
問 21 今後、この財団にどのような事業を実施してほしいですか (複数回答可)

回答数=1,782 (総回答数=4,424)



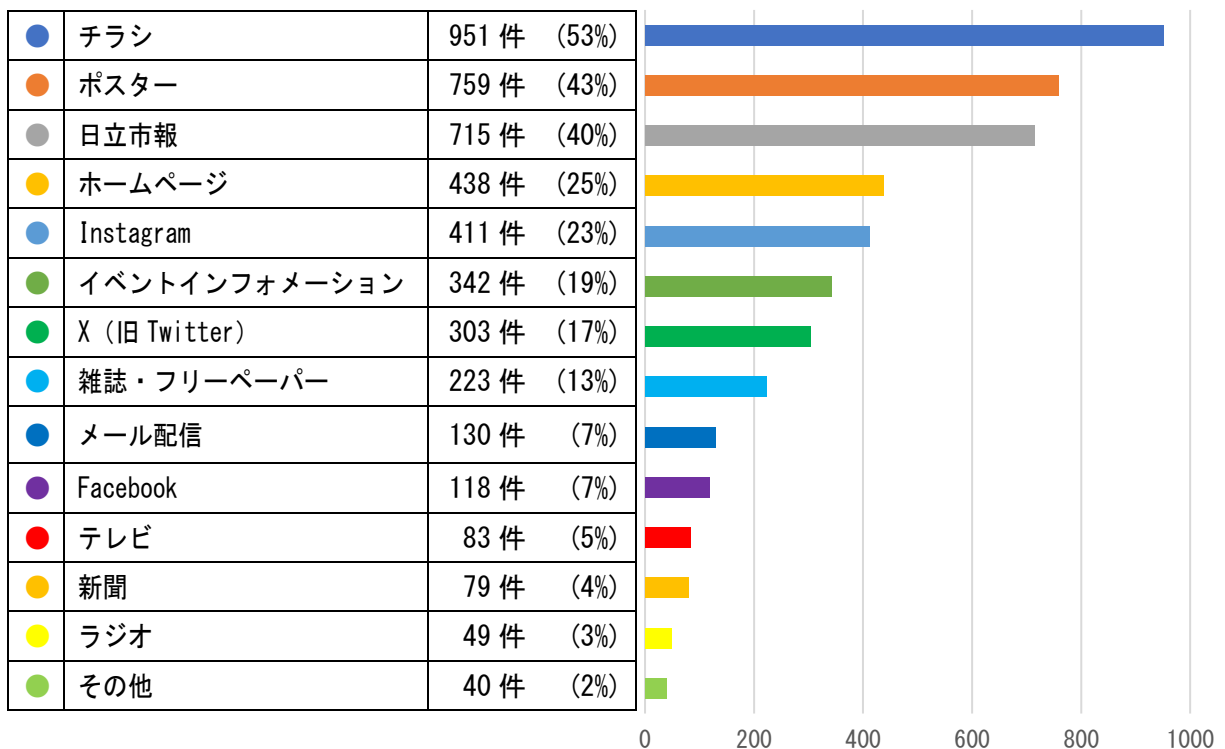
問 22 どの世代に向けたイベントの拡充が望ましいと思いますか（複数回答可）

回答数=1,782（総回答数=4,360）



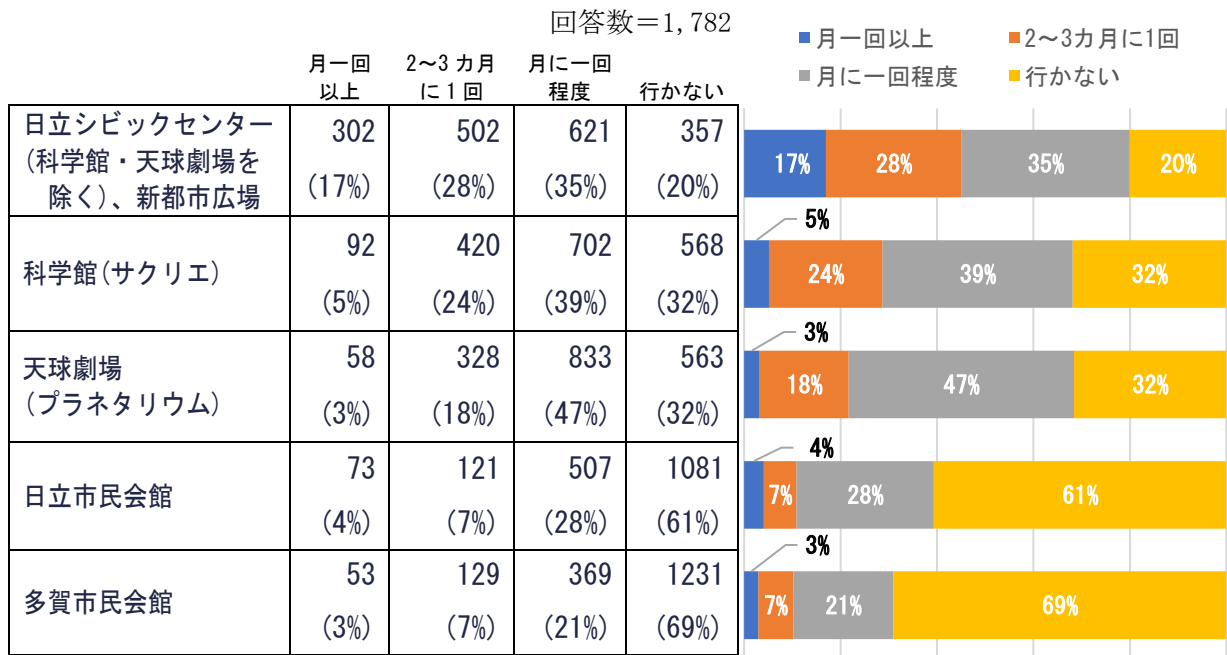
問 23 財団が行うイベントなどの情報をどのような媒体から取得していますか（複数回答可）

回答数=1,782（総回答数4,641）



③財団が管理する施設についてお伺いします

問 24 以下の施設に、あなたが1年間に行く頻度を教えてください



問 25 あなたは日立シビックセンター、日立・多賀市民会館にどのようなイメージを持っていますか（複数回答可）

